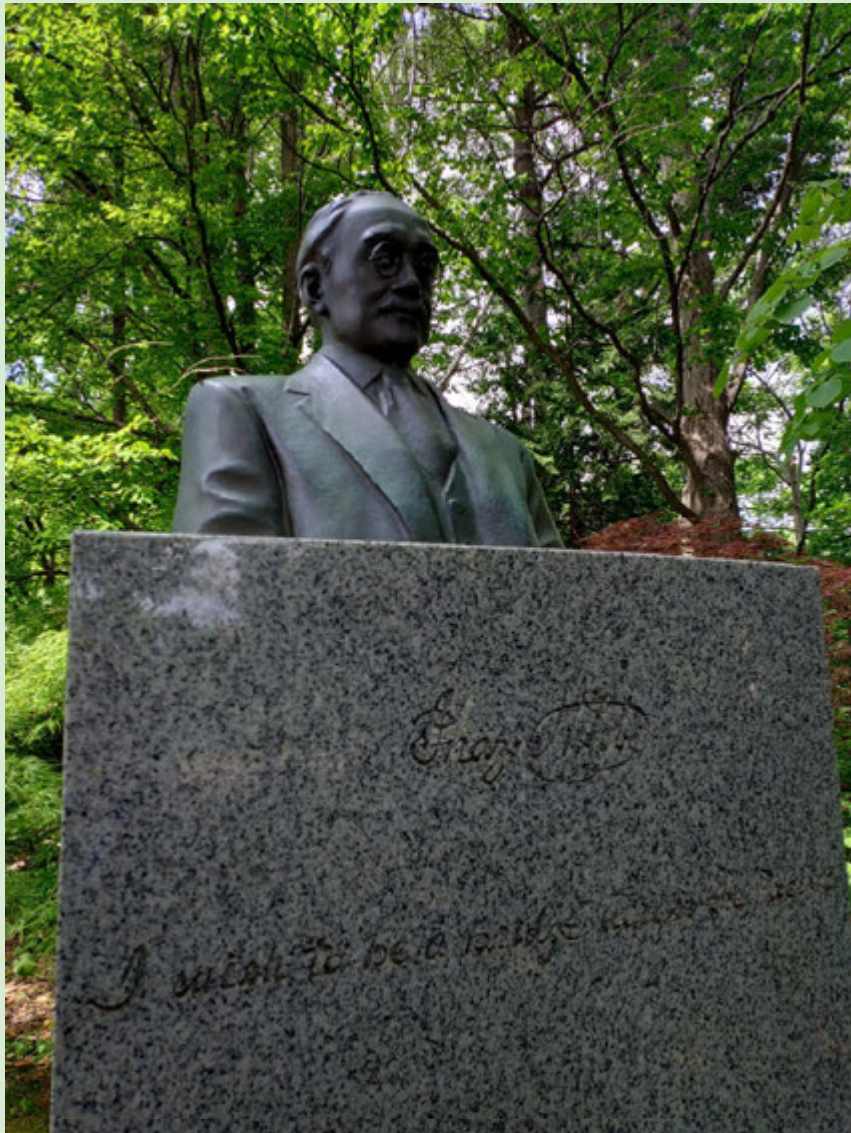


新 渡 戸 カ レ ヅ ジ

2025 年 度 活 動 報 告 書



北海道大学 新渡戸カレッジ

目 次

1	副校長メッセージ	1
2	沿革	2
3	組織図	3
4	運営体制	4
5	学部カリキュラム、大学院カリキュラム概要	12
6	行事一覧	14
7	授業概要、行事概要	15
	（１）学部カリキュラム【授業概要】	15
	（２）大学院カリキュラム【授業概要】	33
	（３）特別講演	58
	（４）行事等広報（北大時報・新渡戸カレッジＨＰ(NEWS)）	59
8	入校者数、修了者数、称号授与者数、部局別在籍者数	76
9	主な就職先、修了者進路（2025 年度）	81
10	奨学金支給状況	82
11	留学の状況	83
12	F D 報告	85
13	Nitobe ポートフォリオの活用	87
14	会議の開催状況	88
15	アンケート結果	92
16	広報資料一覧	101

1 副校長メッセージ

Nitobe College invites you to take a look at our 2025 activities

新渡戸カレッジ副校長 LA FAY Michelle

Nitobe College invites you to take a look at our 2025 activities.

Nitobe College for undergraduates was established in 2013 and Nitobe School for graduate students in 2015. In 2019, Nitobe College and Nitobe School merged to form the new Nitobe College. In 2024, Nitobe College reorganized itself into one program consisting of the undergraduate and graduate curriculums with the purpose of fostering global leaders.

University life is a challenging time for all students, but Nitobe College challenges students to go beyond their standard course of studies to better understand themselves and the world around them.

Undergraduate students discover that learning consists of not finding the one and only correct answer to a problem but instead finding a set of complicated solutions. Negotiating the uncertainty of complex problems is a necessary skill at any stage of life. Graduate students are given perhaps the even more difficult task of finding problems. Being able to identify fundamental problems is a valuable skill in any field.

As both undergraduate and graduate students work through the program content to gain these new skills, they are also discovering how to work in teams. Teamwork presents new challenges of approach, communication, and negotiation across the borders of academic disciplines. The interdisciplinary nature of Nitobe College is perhaps its most essential aspect.

In today's world there are very few problems that can be solved by one person. Complex problems require collaboration between people who bring their own unique approaches and strengths to tackle the world's problems.

Nitobe College hopes to provide a safe space so our students can feel emboldened to try these new things. With encouragement and guidance from our Fellows and Mentors, we are sure that students can hone these skills and develop the abilities of collaboration. Through these experiences we know that students gain confidence and experience which will help them become global leaders and contribute to the society around them wherever they may go.



2 新渡戸カレッジの沿革

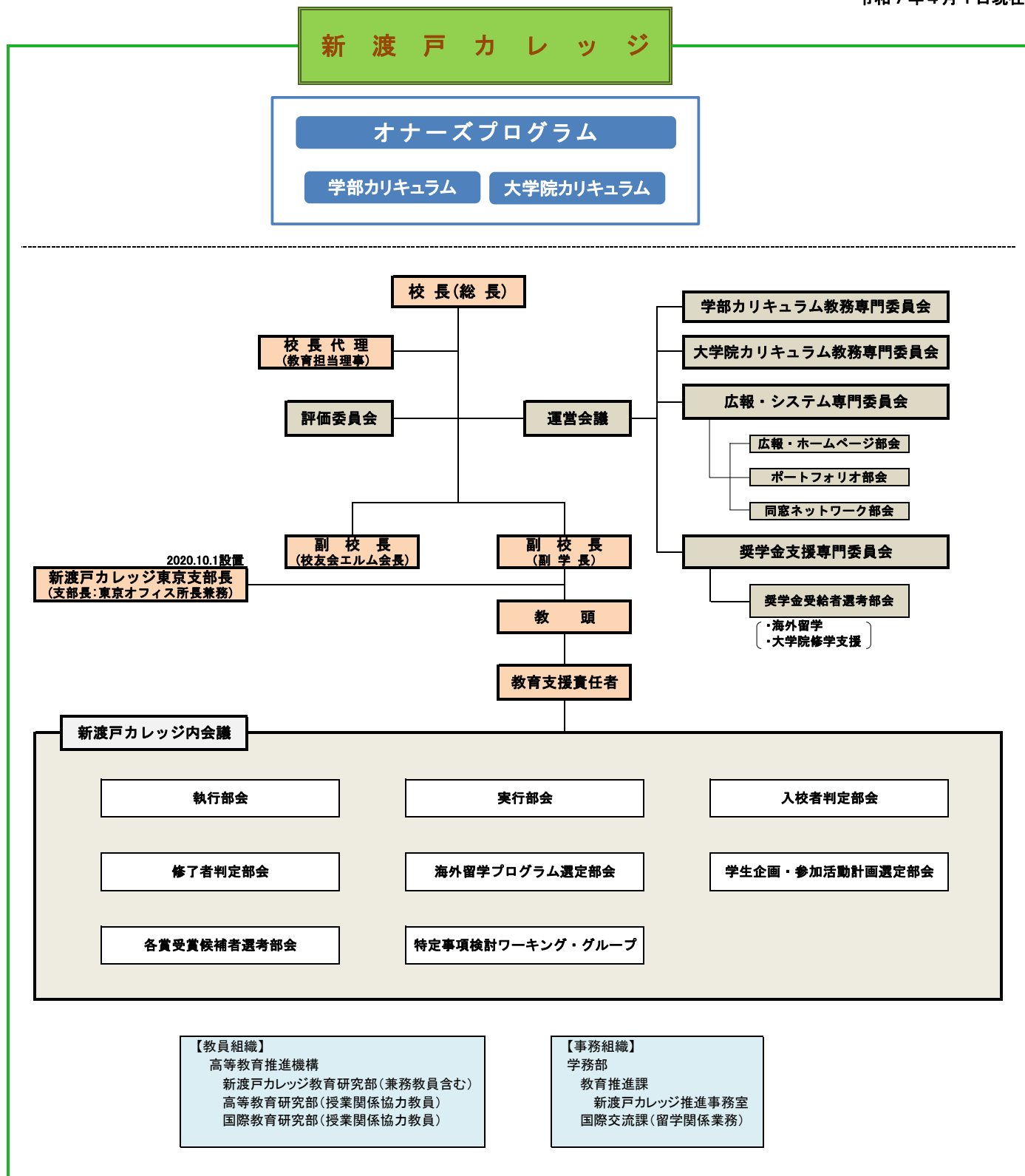
平成 25 年 (2013) 4 月	北海道大学に学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を開校
平成 27 年 (2015) 4 月	北海道大学に大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」を開校
平成 28 年 (2016) 3 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」から第 1 期生 15 名が修了
平成 29 年 (2017) 4 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」を「基礎プログラム」と「オナーズプログラム」の 2 段階のプログラムに変更 大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」に博士課程学生対象の上級プログラムを開設
平成 31 年 (2019) 4 月	学部特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」と大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」を統合し、新生「新渡戸カレッジ」（学部教育コース・大学院教育コース）を設立 新渡戸スクール上級プログラムの終了 現代日本学プログラム課程学生（外国人留学生）の学部教育コースへの受入れ開始
令和 6 年 (2024) 4 月	新渡戸カレッジの体制を刷新 新渡戸カレッジを「オナーズプログラム」のみとし、「学部教育コース」を「学部カリキュラム」、「大学院教育コース」を「大学院カリキュラム」に改称 「基礎プログラム」は、「オナーズプログラム」入校への準備期間としたうえで、学部カリキュラムと大学院カリキュラムの連携を強化



新渡戸カレッジ(学部・大学院合同)入校式 校長挨拶 (2025年10月4日)

3 新渡戸カレッジ組織図

令和7年4月1日現在



4 新渡戸カレッジ運営体制（令和7年度）

（1）役職員

No.	氏 名	役 職 ・ 所 属 等
1	實 金 清 博	校長・総長
2	山 本 文 彦	校長代理・理事・副学長（教育担当）
3	LA FAY Michelle	副校長・副学長・高等教育推進機構新渡戸カレッジ教育研究部長・文学研究院教授
4	杉 江 和 男	副校長・校友会エルム会長（～R7.6.14）
5	真 弓 明 彦	副校長・校友会エルム会長（R7.6.15～）
6	谷 博 文	教頭・工学研究院准教授

（2）運営会議委員

No.	職 名	氏 名	任 期 等
1	校長（総長）：議長	實 金 清 博	R2.10.1～
2	校長代理（総長が指名する理事）	山 本 文 彦	R6.4.1～R8.3.31
3	新渡戸カレッジ副校長	LA FAY Michelle	R7.4.1～
4	新渡戸カレッジ副校長（同窓生）	杉 江 和 男	R 元.6.15～R7.6.14
		真 弓 明 彦	R7.6.15～
5	新渡戸カレッジ教頭	谷 博 文	R7.4.1～
6	文学部長・文学院長	川 端 康 弘	R6.4.1～R8.3.31
7	教育学部長・教育学院長	辻 智 子	R6.4.1～R8.3.31
8	法学部長・法学研究科長	佐々木 雅 寿	R6.12.15～R8.3.31
9	経済学部長・経済学院長	久 保 淳 司	R6.4.1～R8.3.31
10	理学部長	永 井 隆 哉	R7.4.1～R9.3.31
11	医学部長・医学院長	田 中 伸 哉	R7.4.1～R9.3.31
12	歯学部長・歯学院長	網 塚 憲 生	R6.4.1～R8.3.31
13	薬学部長	市 川 聡	R7.4.1～R9.3.31
14	工学部長・工学院院长	幅 崎 浩 樹	R5.4.1～R9.3.31
15	農学部長・農学院院长	野 口 伸	R5.4.1～R9.3.31
16	獣医学部長	迫 田 義 博	R7.4.1～R9.3.31
17	水産学部長・水産科学院長	都 木 靖 彰	R4.4.1～R8.3.31
18	環境科学院長	谷 本 陽 一	R3.10.1～R7.9.30
		小 西 克 明	R7.10.1～R9.3.31
19	理学院院长	久 保 英 夫	R7.4.1～R9.3.31

20	生命科学院長	藤 田 知 道	R7.4.1～R9.3.31
21	国際広報メディア・観光学院長	奥 聡	R5.4.1～R9.3.31
22	保健科学院長	石 津 明 洋	R7.4.1～R9.3.31
23	工学院院长	泉 典 洋	R5.4.1～R9.3.31
24	総合化学院長	忠 永 清 治	R6.4.1～R8.3.31
25	獣医学院長	乙 黒 兼 一	R7.4.1～R9.3.31
26	医理工学院院长	橋 本 孝 之	R7.4.1～R9.3.31
27	国際感染症学院長	今 内 覚	R7.4.1～R9.3.31
28	国際食資源学院長	曾 根 輝 雄	R5.4.1～R9.3.31
29	情報科学院長	近 野 敦	R6.4.1～R8.3.31
30	公共政策学教育部長	岩 谷 將	R7.4.1～R9.3.31
31	高等教育推進機構全学教育部長	野 村 益 寛	R5.4.1～
32	高等教育推進機構総合教育部長	鈴 木 久 男	R2.10.20～
33	高等教育推進機構国際教育研究部長	鄭 惠 先	R5.4.1～
34	同窓生	石 川 裕 一	R5.4.1～R9.3.31
35	同窓生	戸 田 守 道	R5.4.1～R9.3.31
36	同窓生	石 川 めぐみ	R7.4.1～R7.3.31
37	学務部長	高 橋 慶 匡	R7.4.1～

(3) 学部カリキュラム教務専門委員会

No.	所 属	役 職	氏 名	任 期 等
1	新渡戸カレッジ	副校長	LA FAY Michelle	職指定
2	新渡戸カレッジ	教頭	谷 博 文	職指定(委員長)
3	外国語教育センター	センター長	田 中 英 資	職指定
4	文学部	教授	谷 本 晃 久	R6.4.1～R8.3.31
5	教育学部	教授	阿 部 匡 樹	R6.4.1～R9.3.31
6	法学部	教授	齊 藤 正 彰	R6.4.1～R8.3.31
7	経済学部	教授	石 井 利 昌	R7.4.1～R9.3.31
8	理学部	教授	鈴 木 孝 紀	R5.4.1～R9.3.31
9	医学部	教授	高 橋 誠	R4.4.1～R8.3.31
10	歯学部	准教授	長谷川 智 香	R7.4.1～R9.3.31
11	薬学部	講師	柏 木 仁	R6.4.1～R8.3.31
12	工学部	教授	浅 野 泰 寛	R6.4.1～R8.3.31
13	農学部	教授	小 関 成 樹	R5.4.1～R9.3.31

14	獣医学部	教授	池 中 良 徳	R6.4.1～R8.3.31
15	水産学部	准教授	BOWER John Richard	R5.4.1～R9.3.31
16	高等教育推進機構	全学教育部長	野 村 益 寛	職指定
17	高等教育推進機構	国際教育研究部長	鄭 惠 先	職指定
18	学務部	教育推進課長	土 本 光 一	職指定
19	学務部	国際交流課長	川 崎 直	職指定
20	医学部保健学科	教授	澤 村 大 輔	R6.4.1～R8.3.31

(4) 大学院カリキュラム教務専門委員会

No.	所 属	職 名	氏 名	任 期 等
1	新渡戸カレッジ	教頭	谷 博 文	職指定(委員長)
2	新渡戸カレッジ	副校長	LA FAY Michelle	職指定
3	法学研究科	教授	岸 本 太 樹	R7.4.1～R9.3.31
4	水産科学院	教授	栗 原 秀 幸	R6.4.1～R9.3.31
5	環境科学院	准教授	早 川 裕 一	R7.4.1～R9.3.31
6	理学院	教授	佐 藤 光 輝	R7.4.1～R9.3.31
7	農学院	教授	若 松 純 一	R7.4.1～R9.3.31
8	生命科学院	教授	小 川 宏 人	R5.4.1～R9.3.31
9	教育学院	教授	北 村 嘉 恵	R6.4.1～R9.3.31
10	国際広報メディア・観光学院	講師	志 柿 浩一郎	R5.4.1～R9.3.31
11	保健科学院	准教授	佐 藤 三 穂	R7.4.1～R9.3.31
12	工学院	教授	宮 森 保 紀	R5.4.1～R9.3.31
13	総合化学院	教授	向 井 紳	R5.4.1～R9.3.31
14	経済学院	准教授	小 杉 雅 俊	R7.4.1～R9.3.31
15	医学院	教授	上 田 佳 代	R7.4.1～R9.3.31
16	医理工学院	教授	石 川 正 純	R5.4.1～R9.3.31
17	国際食資源学院	准教授	高須賀 太 一	R7.4.1～R9.3.31
18	文学院	教授	水 溜 真由美	R7.4.1～R9.3.31
19	情報科学院	教授	田 中 章	R6.4.1～R9.3.31
20	公共政策学教育部	准教授	五十嵐 洋 介	R6.4.1～R9.3.31
21	学務部教育推進課	課長	土 本 光 一	職指定
22	新渡戸カレッジ	教育支援責任者	伊 藤 秀 臣	R6.4.1～R8.3.31

(5) 広報・システム専門委員会

No.	所 属・職 名	氏 名	任 期 等
1	新渡戸カレッジ教頭	谷 博 文	職指定（委員長）
2	新渡戸カレッジ副校長	LA FAY Michelle	職指定
3	高等教育推進機構准教授	野 澤 俊 介	R5.4.1～R9.3.31
4	高等教育推進機構特任准教授	内 田 治 子	R7.1.1～R9.3.31
5	高等教育推進機構講師	山 畑 倫 志	R5.4.1～R9.3.31
6	学務部教育推進課長	土 本 光 一	職指定

(6) 奨学金支援専門委員会

No.	所 属・職 名	氏 名	任 期 等
1	新渡戸カレッジ副校長	LA FAY Michelle	職指定（委員長）
2	新渡戸カレッジ教頭	谷 博 文	職指定
3	法学部教授	齊 藤 正 彰	学部教育コース教務委員会委員
4	理学部教授	鈴 木 孝 紀	学部教育コース教務委員会委員
5	獣医学部教授	池 中 良 徳	学部教育コース教務委員会委員
6	総合化学院教授	向 井 紳	大学院教育コース教務委員会委員
7	高等教育推進機構 国際教育研究部長	鄭 惠 先	職指定
8	学務部教育推進課長	土 本 光 一	職指定
9	学務部国際交流課長	川 崎 直	職指定

(7) 評価委員会

No.	所 属	役 職 名	氏 名	任 期 等
1	学外委員	フェロー	多 田 幸 雄	R6.4.1～R8.3.31
2	学外委員	フェロー	森 順 子	R6.4.1～R8.3.31
3	学外委員	フェロー・メンター	萩 野 泉	R4.4.1～R8.3.31
4	学外委員	メンター	佐 伯 百合子	R4.4.1～R8.3.31
5	新渡戸カレッジ	副校長	LA FAY Michelle	職指定
6	新渡戸カレッジ	教頭	谷 博 文	職指定
7	高等教育推進機構	国際教育研究部長	鄭 惠 先	職指定

(8) フェロー

No.	氏 名	担当	現職（元職を含む）	卒年等
1	上田 英樹	CDS (統括)	株式会社 テクノラボ 代表取締役社長	S63 教
2	石川 裕一	Fゼミ	エナライン株式会社 会長 ジョンソンコントロールズ(株)取締役	S54 法
3	伊藤 慎	CDS (統括)	アルジェニクスジャパン株式会社 神経疾患領域 マーケティング部門 アソシエイトディレクター	H15 薬修
4	多田 幸雄	Fゼミ (統括)	株式会社 双日総合研究所 相談役 長崎大学経済学部客員教授	S51 農
5	大友 俊彦	Fゼミ	中外製薬株式会社 オンコロジーライフサイクルマネジメント部長	H4 獣
6	廣重 勝彦	Fゼミ	北海道大学東京オフィス副所長 (ファンドレイジング マネージャー) 一般社団法人日本社債調査センター 代表理事	S57 法
7	萩野 泉	Fゼミ	株式会社 電通クロスブレイン 執行役員 CGO (Chief Growth Officer)	H22 薬 H27 博・保健科学
8	森 順子	CDS	株式会社 ハッピーアロー代表取締役	H28 教修
9	三村 直己	CDS	(株) ロジック・リサーチ シニアコンサルタント	S57 理
10	日野 峰子	CDS	会議通訳者	S59 文
11	石川 めぐみ	Fゼミ	CJコミュニケーション代表	H2 文
12	村山 和佳	CDS	日本工営株式会社 流域水管理事業本部 農村整備部	H7 農

(注) 「Fゼミ」=フェロゼミ、「CDS」=セルフキャリア発展ゼミ

(9) メンター

No.	氏 名	現職（元職を含む）	卒年等
1	中 原 拓	メタジェンセラピューティクス株式会社 代表取締役社長	理・D
2	佐 伯 百合子	株式会社 資生堂 みらい開発研究所 R&D 戦略部 研究員	生命・M
3	藤 井 幸 大	サンマルコ食品株式会社 代表取締役社長	カリフォルニア州アカデミーオブアート大学・B
4	和 田 義 明	衆議院議員	早稲田・B
5	中 島 徹	15th Rock Spirete 株式会社 Founder & General Partner 代表取締役	工・M
6	石 川 憲 一	株式会社日本医療器研究所 代表取締役社長	工・M
7	Eric Ofosu-Twum	株式会社 日立製作所 研究開発グループ 研究員	総化・D
8	萩 野 泉	株式会社電通 リテールマーケティング部 シニア・アナリスト	保健・D
9	黒 田 垂 歩	ブラックフィールズ コンサルティング CEO	薬・D
10	佐 賀 美 紅	株式会社 日立製作所 鉄道ビジネスユニット人事総務本部 人事企画部タレントマネジメントグループ	文・M

(10) 執行部会構成員

No.	氏 名	職 名
1	LA FAY Michelle	副校長、副学長、文学研究院教授
2	谷 博 文	教頭、工研究院准教授
3	土 本 光 一	教育推進課長
4	佐 藤 浩 司	教育推進課 新渡戸カレッジ推進事務室長
5	石 川 由香里	教育推進課 新渡戸カレッジ推進事務室係長

(11) 学部実行部会構成員

No.	氏 名	担当（所属等）
1	LA FAY Michelle	副校長、副学長、大学院文学研究院教授
2	亀 野 淳	全学教育科目（大学と社会）・学部カリキュラム キャリア支援（キャリアセンター長 高等教育推進機構 教授）
3	江 本 理 恵	学部カリキュラム 新渡戸ポートフォリオ（高等教育推進機構 教授）
4	野 澤 俊 介	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」担当（高等教育推進機構 准教授）
5	内 田 治 子	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施、行事企画、全学教育科目（北大での学び）実施（高等教育推進機構 准教授）
6	山 畑 倫 志	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」担当（高等教育推進機構 准教授）
7	肖 蘭	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施・海外留学（高等教育推進機構 講師）
8	鄭 漢 模	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施（高等教育推進機構 講師）
9	畑 中 貴 美	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」実施・行事企画（高等教育推進機構 特任講師）
10	田 中 孝 平	学部カリキュラム 授業「グローバル基礎科目」実施（高等教育推進機構 助教）
11	川 谷 維 摩	学部カリキュラム 授業「新渡戸学（フェローゼミ）」「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施（高等教育推進機構 特任助教）
12	川 崎 直	事務部（学務部国際交流課長）
13	片 石 竜 史	事務部（学務部国際交流課長補佐）
14	佐 藤 浩 司	事務部（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 室長）
15	石 川 由香里	事務部（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 係長）
16	石 川 智 子	事務部（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ担当）
17	平 尾 果乃子	事務部（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ担当）
18	小 坂 さつき	事務部（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ担当）

(12) 大学院実行部会構成員

No.	氏 名	所属等
1	谷 博 文	教頭（工学研究院准教授）
2	LA FAY Michelle	副校長（副学長・大学院文学研究院教授）
3	伊 藤 秀 臣	教育支援責任者（理学研究院准教授）
4	LOMAEVA Marina	大学院カリキュラム授業実施（高等教育推進機構特任助教）
5	WHITFIELD Dale Lee	大学院カリキュラム授業実施（高等教育推進機構特任助教）
6	佐 藤 浩 司	事務局（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 室長）
7	石 川 由香里	事務局（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 係長）
8	五十嵐 麻 里	事務局（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ大学院担当）
9	碓 井 まり子	事務局（学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ大学院担当）

(13) 大学院カリキュラム授業担当教員

No.	氏 名	ターム	役 職 ・ 所 属 等
1	グローバル実践科目Ⅰ	春	WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
2	グローバル実践科目Ⅱ	夏	岩 崎 晋 弥 地球環境科学研究院 助教
			SCRIMSHAW TRAVIS Cole 理学研究院 助教
			WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
3	グローバル実践科目Ⅰ	秋	新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
4	グローバル実践科目Ⅱ	冬	橋 本 勝 文 工学研究院 准教授
			新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
5	グローバル発展科目Ⅰ	春	SAUNAVAARA JUHA MIKAEL 北極域研究センター准教授
			LOMAEVA Marina 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
6	グローバル発展科目Ⅱ	夏	Ricardo Ospina 農学研究院助教
			LOMAEVA Marina 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
7	グローバル発展科目Ⅰ	秋	BOMME GOWDA SIDDABASAVE GOWDA 保健科学研究院 准教授
			WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
8	グローバル発展科目Ⅱ	冬	三 浦 篤 志 理学研究院 准教授
			WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
9	新渡戸カレッジ特別演習	集中	LOMAEVA Marina 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教
			WHITFIELD Dale Lee 新渡戸カレッジ教育研究部特任助教

(14) 学務部教育推進課新渡戸カレッジ推進事務室

No.	氏 名	職 名
1	土 本 光 一	教育推進課長
2	宮谷内 洋	教育推進課課長補佐
3	佐 藤 浩 司	事務室長
4	石 川 智 子	新渡戸カレッジ(学部)担当 特定専門職員
5	平 尾 果乃子	新渡戸カレッジ(学部)担当 特定専門職員 (R7.5.19～)
6	小 坂 さつき	新渡戸カレッジ(学部)担当 事務補佐員
7	石 川 由香里	新渡戸カレッジ(大学院)担当係長
8	五十嵐 麻 里	新渡戸カレッジ(大学院)担当特定専門職員
9	碓 井 まり子	新渡戸カレッジ(大学院)担当 事務補佐員



令和 7 年 6 月 15 日 (日) 新渡戸カレッジメンターフォーラム (大学院)

5 新渡戸カレッジ学部カリキュラム及び大学院カリキュラムの概要

(1) 学部カリキュラム

新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラムでは、本学の四つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）及び新渡戸稲造から学ぶべき精神に基づきつつ、各々の学問分野における専門性を修得しながら、分野横断的な特別教育プログラムでの学びや国際交流の場などを通して、以下に記す5つの力を身につけ、それらを発揮できるグローバルリーダーを育成することを目指としている。

【5つの力】

- | |
|-----------------------------|
| ① 自己成長力 |
| 自律的な個人の確立に向けて、継続的に精励する力 |
| ② コミュニケーション力 |
| 外国語運用能力を含む、高いコミュニケーション力 |
| ③ 多文化理解力 |
| 文化的背景の異なる他者の考えを理解し、尊重する力 |
| ④ 課題解決力 |
| さまざまな課題に対して、周囲との協働により解決を図る力 |
| ⑤ 社会的倫理観 |
| 社会的役割を認識し、責任感・倫理観をもって行動する力 |

新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラムでは、この目標とするグローバルリーダー像に求められる具体的な能力基準を定め、当該能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に国際的に通用する新渡戸カレッジの修了証を授与する。



新渡戸カレッジフェローゼミ報告会（2025年12月6日）

(2) 大学院カリキュラム

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムでは、北海道大学のすべての修士課程及び専門職学位課程に在籍する学生を対象に、創造的・批判的思考、リーダーシップ、課題解決・問題発見などを、専門性や文化的背景の異なる学生たちがともに学び実践することを通して、以下に記す「3+1 の力（能力更新力、組織形成力、社会還元力＋専門職倫理）」を身につける。

【3 + 1 の力】

① 能力更新力

社会の変化に応じて、新たに求められる知識を獲得し、自分を成長させていく能力及び創造的・批判的思考を相補的に駆使して計画・実践する能力

② 組織形成力

多様な専門性を有する人々とチームを組織し、高いコミュニケーション力でリーダーシップに貢献することにより、共通の目標に向けて協働し、成果に結びつける能力

③ 社会還元力

社会的役割を認識し、責任感及び倫理観を持って、多様な状況下における課題を的確に把握し、それをより良い方向に解決していく能力

④ 専門職倫理

価値観の多様化する社会における倫理的な問題を敏感に捉えつつ、高度な教育を受けた専門家として社会全体の利益や影響を考え、責任を持って公平・公正な決断を下す能力

また、新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムの特徴は、次のとおりである。

【4 つの特徴】

① 国際社会の縮図

多様性に対する高い認識を伴ったコミュニケーション能力を磨く。

② 領域横断的学修環境

研究分野の異なる仲間とともに学ぶことで互いの専門的知識を深め合う。

③ アクティブラーニング

徹底したチーム学習により批判的思考、課題解決能力を強化する。

④ 世界的ネットワーク

生涯を通じたキャリアビルディングに資する人脈を構築する。

6 令和7(2025)年度新渡戸カレッジ行事一覧

月	学部カリキュラム行事予定		大学院カリキュラム行事予定	
	日(曜日)	行 事	日(曜日)	行 事
4	4 金	北海道大学入学式	4 金 17:00～18:00	大学院ブレブプログラム科目ガイダンス(日本語)
	7 月 16:30～17:30	第1回オナーズプログラム入校説明会	7 月 17:00～18:00	大学院ブレブプログラム科目ガイダンス(英語)
	8 火	第1学期全学教育・総合教育授業開始		
	11 金	グローバル基礎科目授業開始(5・6講目、ガイダンス)		
	16 水 18:30～19:30	オナーズプログラムガイダンス		
	17 木 18:30～19:30	オナーズプログラムガイダンス		
	下旬頃	第1回学部カリキュラム教務専門委員会(持ち回り)	19 土 11:00～11:30	オナーズプログラム大学院カリキュラム入校式、 オナーズプログラム春ターム授業開始
5	上旬頃	第1回新渡戸カレッジ運営会議(持ち回り)	下旬頃	第1回大学院カリキュラム教務専門委員会(持ち回り)
	17 土	第1回セルフキャリア発展ゼミ	上旬頃	第1回新渡戸カレッジ運営会議(持ち回り)
6	2 月	第1回フェロー交流・研究会(OL)		
			4 水	オナーズプログラム春ターム授業終了
	28(土)～29(日)	第2回セルフキャリア発展ゼミ(合宿)	11 水	オナーズプログラム夏ターム授業開始
7			15 日	第1回メンターフォーラム・メンター会議
	28 月	第2回オナーズプログラム入校説明会		
	3(日)～4(月)	オープンキャンパス	23 水	オナーズプログラム夏ターム授業終了
8	4(月)～9.30(火)	全学教育・総合教育夏季休業		
9			5(金)～8(月)	TOEIC-IP試験(OL)
			中旬	オナーズプログラム大学院カリキュラム修了式(9月修了)
	下旬頃	第2回学部カリキュラム教務専門委員会(OL)	下旬頃	第2回大学院カリキュラム教務専門委員会(OL)
	26 金 13:30～15:00	第2回新渡戸カレッジ運営会議(OL)	26 金 13:30～15:00	第2回新渡戸カレッジ運営会議(OL)
	27 土	セルフキャリア発展ゼミフォローアップ(第1回)		
10	1 水	第2学期全学教育・総合教育授業開始	1 水 17:00～18:00	大学院ブレブプログラム科目ガイダンス(日本語)
			2 木 17:00～18:00	大学院ブレブプログラム科目ガイダンス(英語)
	4 土	オナーズプログラム学部カリキュラム入校式、 第1回フェローゼミ	4 土	オナーズプログラム大学院カリキュラム入校式、 オナーズプログラム秋ターム授業開始
	18 土	第2回フェローゼミ(現地視察)		
	25 土	第3回フェローゼミ		
11	8 土	第4回フェローゼミ	19 水	オナーズプログラム秋ターム授業終了
	22 土	第5回フェローゼミ	26 水	オナーズプログラム冬ターム授業開始
	29 土	セルフキャリア発展ゼミフォローアップ(第2回)		
12	6 土	公開シンポジウム・成果発表会、フェローゼミ振り返り会	13 土	第2回メンターフォーラム・メンター会議
	20 土	TOEFL-ITP試験		
	29(月)～1.2(金)	全学教育・総合教育冬季休業		
1	5 月	全学教育・総合教育授業再開	14 水	オナーズプログラム冬ターム授業終了
2	4 水	第2学期全学教育・総合教育授業終了		
	10 火 15:00～16:30	第2回フェロー交流・研究会(振り返り会(OL))		
	下旬頃	第3回学部カリキュラム教務専門委員会(OL)	下旬頃	第3回大学院カリキュラム教務専門委員会(OL)
3	3 火 13:30～15:00	第3回新渡戸カレッジ運営会議・意見交換会(OL)	3 火 13:30～15:00	第3回新渡戸カレッジ運営会議・意見交換会(OL)
			中旬	オナーズプログラム大学院カリキュラム修了式(3月修了)
			下旬	TOEIC-IP試験(OL)※R8年度春入校生対象
	25 水 12:30～13:00	学位記授与式(札幌) オナーズプログラム学部教育コース修了式		
	26 木	学位記授与式(函館)		

*OL：オンライン会議

7 新渡戸カレッジ授業概要、行事概要

(1) 学部カリキュラム

2025 年度グローバル基礎科目実施報告

グローバル基礎科目について

グローバル基礎科目は前期の春ターム(国際理解と海外留学)と夏ターム(リーダーシップとチームワーク)に開講される全学教育科目で、全学生が履修可能になっている。同時に新渡戸カレッジへの入校を目指す学生の必須科目でもある。本科目は、新渡戸カレッジの理念と教育目標に基づく授業として設計されており、オナーズプログラムで必要とされるアカデミックスキルの習得も視野に入れている。

本年度の授業は金曜日の5・6講目に開講された。履修者数は春ターム275名、夏ターム265名だった。両タームで単位を取得した244名のうち154名が新渡戸カレッジへの入校を申請し、137名が入校を認められた。

グローバル基礎科目は、春・夏タームを通して、ラフェイ ミシェル文学研究院教授、鄭漢模高等教育推進機構講師、田中孝平高等教育推進機構助教、川谷維摩高等教育推進機構特任助教の協力のもと、内田治子高等教育推進機構准教授が担当した。春タームは6名の講師によるオムニバス形式の講義、夏タームは、学生ファシリテーター(コアチューター4名とチューター16名)のもとでの課題解決型授業を実施した。

2025 年度グローバル基礎科目履修者数と単位取得者数

開講時期	時限	履修者(名)	単位取得者(名)
春ターム	金 5	228	215
	金 6	47	46
夏ターム	金 5	175	158
	金 6	90	86

春ターム「国際理解と海外留学」

春タームの「国際理解と海外留学」では、海外経験の豊富な講師から、国際社会における課題や各研究分野の状況、留学の実態などを学んだ。また、講義を通じて、キャリアデザインの観点から自分自身の留学の目的と意義を考えるとともに、今後の留学に向けて主体的・計画的に考え、行動できるようになることを目指した。

本年度は6名の講師に講義をしていただいた(石塚真由美・大学院獣医学研究院教授、弐和順・高等教育推進機構特任教授、児矢野マリ・法学研究科教授、ラフェイ ミシェル・大学院文学研究院教授/新渡戸カレッジ副校長、日野峰子・新渡戸カレッジフェロー、井上修平・高等教育推進機構客員教授。第8回は学生による留学体験談)。

夏ターム「リーダーシップとチームワーク」

夏タームの「リーダーシップとチームワーク」について、講義や各自の資料調査から学び、グループワークを通じて各自の考えを深めた。さらに、チームで課題に取り組みながら、ディスカッションや発表のための実践的なスキルを磨き、自ら望ましいリーダーシップを発揮できるようになることを目指した。

本科目の課題は札幌市まちづくり政策局の協力を得て、札幌市が抱える具体的な課題を提示していただい

たうえで、学生との質疑応答、最終発表の講評などにも協力いただいた。本年度は「私たちが解決したい札幌市の課題」についてチームで検討し発表を行った。グループワークでは、KJ 法¹などの基本的な手法を実践したほか、グループワークにおける各自の行動およびグループ全体の成果を振り返り、今後の活動に活かすよう促した。

各クラスの授業進行は、事前研修を受けたコアチューター4名（名和桃子（農 M1）、大迫想呼（獣 4）、羽鳥健太郎（農 4）、佐々木有那（工 4））とチューター16名が担当した。

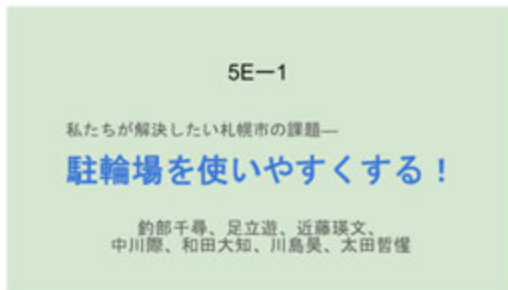
2025年度グローバル基礎科目 春ターム「国際理解と海外留学」授業スケジュール

教室：S2講義室

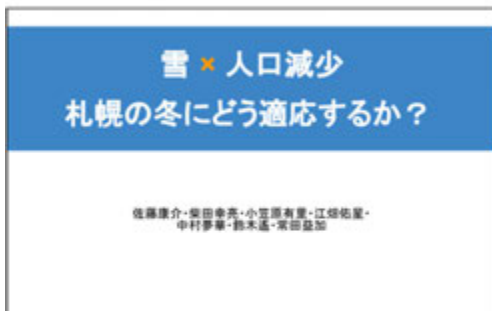
回	日付	タイトル（担当者・所属）	キーワード	内容	課題
1	4/11 (金)	オリエンテーション (ラフェイ ミシェル・文学研究院、 内田治子・高等教育推進機構)		シラバスに基づいて、本科目の目標や概要、スケジュール、評価方法を説明し、北大での海外留学プログラムについて紹介する。	課題 (4/18正午まで)
2	4/18 (金)	新渡戸稲造と『武士道』 (弥和順・名誉教授)	新渡戸稲造、 『武士道』、 利他的精神、 国際理解	新渡戸稲造の生涯をたどるとともに、代表作『武士道』の読解を通して、その利他的精神（ノブレス・オブリージュ）、国際理解、リーダーシップなどについて解説し、あわせて現代的意義を考察する。	第2回出席レポート (4/25正午まで)
3	4/25 (金)	アフリカの環境汚染解決と One Healthへの挑戦 (石塚真由美・獣医学研究院)	アフリカ、 環境汚染、 健康、 One Health、 課題解決	鉛、ヒ素、水銀、日本が過去に経験した様々な環境汚染。これらが、今、まさに現在進行形で環境汚染が進んでいる国を知っていますか？アフリカでの環境汚染を解決するために400名の日本とザンビアの研究者と学生が立ち上がりました。Aii北大で挑戦したその軌跡を紹介します。	第3回出席レポート (5/2正午まで)
4	5/2 (金)	Thinking about Study Abroad (ラフェイ ミシェル・文学研究院 新渡戸カレッジ副校長)	Experiences and benefits of study abroad. Varieties of programs, language tests.	How to plan your study abroad! Tips on identifying your purpose, deciding where to go, and navigating the application process. Get some advice from real-life experiences.	第4回出席レポート (5/9正午まで)
5	5/9 (金)	海外でトラブルに遭ったとき、 お役立ち法律関係の豆知識 ーとくに国際法の視点から (児矢野マリ・法学研究科)	海外でのトラブル、 リスク管理、 法律関係、 国際法、 条約	A国留学中にB国を旅行していたX君は、突然よくわからないままにB国の警察に連行されてしまいました。X君は、B国の現地語をよく話せないし、B国内に知人・友人もいません。どうしたらいいのでしょうか？ーこんなとき、法律関係の豆知識は必須。この授業では、現実の具体例を題材にしつつ、国際法の視点で基本的な対処方法について学びます。	第5回出席レポート (5/16正午まで)
6	5/16 (金)	英語のちから、母語のちから (日野峰子・新渡戸カレッジフェロー)	リンガフランカ、 国際人としてのコミュニ ケーション能力、 デリバリーとブラクテ イス	良くも悪くも事実上のリンガフランカとなってしまう英語ですが、せっかく学ぶのなら効果的に使えるようにしたいものです。会議通訳者が遭遇した「痛い」人々を反面教師として、コミュニケーターとして目指すべき姿を考えてみましょう。	第6回出席レポート (5/23正午まで)
7	5/23 (金)	国際プロジェクト商戦 海外現場からのメッセージ (井上修平・高等教育推進機構)	先読みの力、 限界への挑戦	海外エネルギー開発プロジェクトは、大規模で、難易度の高いビジネスです。然しながら、エネルギーの殆どを海外輸入に依存する我が国にとっては必要不可欠の事業です。あなたならどのように取り組みますか。	第7回出席レポート (5/30正午まで)
8	5/30 (金)	学生による留学体験談	先輩の留学体験談、 留学の意義、 留学プラン	留学を経験した先輩学生に、その体験に基づく留学の意義を語ってもらい、その後、質疑応答、ディスカッションを行うことで、内容の理解を一層深める。	第8回出席レポート (6/6正午まで)

¹ KJ 法：カードや付箋を用いて情報を整理・構造化し、問題解決や新たな発見につなげる手法

5限



6限



2025 年度新渡戸学（フェローゼミ）実施報告

1. フェローゼミの概要

新渡戸学（フェローゼミ）はオナーズプログラム入校後、最初に取り組むべき必修科目で、少人数の演習形式で行われる授業である（1 単位、合否評価）。

(1) 目的

世界が抱えている諸問題について、実際に現地を視察して学ぶとともに、グループワークを通して、学問と社会のあり方や持続可能な社会のあり方を考え、同時にリーダーシップやチームワーク力を身につける。

(2) 目標

- ① 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。
- ② 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。
- ③ ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。
- ④ ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。

(3) 内容

- ゼミ担当フェローの他、支援教員、テーマに関連する関係者が協力し、2025 年度は 6 テーマで実施した。初回は 10 月 4 日の新渡戸カレッジ合同入校式の後、全体オリエンテーションに続いて行った。テーマ別に分かれて全 5 回のゼミを実施し、12 月 6 日のフェローゼミ報告会で終了した。
- チューターは新渡戸カレッジ 2 年目以上の上級生等が担当した。ゼミを支援するチューターは各ゼミにつき 3 名（合計 18 名）、ゼミチューターを統括するコアチューターは 4 名が担当した。フェローゼミにおけるコアチューターの主な役割は担当教員及び、チューターとの調整やチューターへの指導助言である。
- 履修者は 6 ゼミの一つに所属するが、希望者が集中するゼミでは抽選により履修者を決定した。
- フェローゼミ報告会は、フェローゼミの成果報告や意見交換を通じて視野を広げ、知識を深めることを目的として 12 月 6 日に実施した。各ゼミの持ち時間は発表 15 分、質疑応答 8 分、交代 2 分の 25 分である。フェローゼミ履修生による投票で学生大賞を決

定し、2025 年度は萩野フェローゼミが受賞した。総評では、真弓副校長より発表全体についての感想をいただいた。講評では、コアチューターの 4 名で、各ゼミを聴講した時の様子や報告会の発表について感想を述べ、2 か月間のゼミ全体にわたっての講評とした。また、高大連携を行っている高校へ報告会への参加（大講堂での参加またはライブ配信での視聴）を呼びかけた。報告会の様子はライブ配信を行い、フェローゼミ関係者をはじめ、新渡戸カレッジフェロー等に視聴案内を送付した。

- フェローゼミ報告会の録画映像、発表スライド、発表要旨は学内のシステムを利用し、履修者、チューター及びフェローゼミ担当フェロー・支援教員に共有する予定である。

(4) 2025 年度新渡戸学（フェローゼミ）とそのテーマ

ゼミ名	テーマ	履修者
石川めぐみフェローゼミ	アドベンチャートラベルの可能性と課題	22 名
石川裕一フェローゼミ	グローバル化の終焉に伴い混迷する世界情勢 の中での我国の安全保障	23 名
大友俊彦フェローゼミ	持続的な健康(健幸)促進、未来の生き方を考える	22 名
多田幸雄フェローゼミ	「学内留学 2.0」更なる進化でパワーアップ	23 名
萩野泉フェローゼミ	わたし自身への問いと共創から紡ぐ、持続可能な社会に 向けたアイデア発想	23 名
廣重勝彦フェローゼミ	スタートアップで社会課題の解決にチャレンジする	23 名

2. フェローゼミの実施経過

日程	内容	備考
5/23(金)	フェローゼミ打ち合わせ	Zoom で実施
7/11(金)	チューター募集開始	
8/1(金)	チューター採用通知	18 名を採用（1 ゼミ 3 名）
8/4(月)	新渡戸カレッジオナーズプログラム（学部） 入校申請開始（フェローゼミ募集含む）	
9/19(金)	所属ゼミ発表	

9/24(水)	チューター事前説明会	対面で実施
9/24(水)	フェローゼミ打ち合わせ	Zoom で実施
10/4(土)	新渡戸カレッジ入校式（学部・大学院合同） 全体オリエンテーション 第1回フェローゼミ	
10/18(土)	第2回フェローゼミ	現地視察
10/25(土)	第3回フェローゼミ	
11/8(土)	第4回フェローゼミ	
11/22(土)	第5回フェローゼミ	
12/6(土)	フェローゼミ報告会 ゼミ別振り返り	フェローゼミ発表、総評・講評、学生 大賞表彰

（参考）

正式入校生：137 名

ゼミ履修者：136 名（休学：1 名）

チューター：18 名（大学院0 名、学部18 名）

コアチューター：4 名（大学院1 名、学部3 名）

3. フェローゼミの様子



石山緑地視察（石川めぐみゼミ）



自衛隊の防衛講話（石川裕一ゼミ）



いきいきウェルネスフェア視察（大友ゼミ）



モエレ沼公園視察（多田ゼミ）



サッポロさとらんど視察（萩野ゼミ）



エア・ウォーターの森視察（廣重ゼミ）



第4回ゼミの様子（多田ゼミ）



第5回ゼミの様子（石川めぐみゼミ）



第5回ゼミの様子（廣重ゼミ）



フェローゼミ報告会（大友ゼミ発表）



フェローゼミ報告会（石川裕一ゼミ質疑）



コアチューターによる講評



学生大賞受賞ゼミ（萩野ゼミ）



報告会終了後の全体集合写真

テーマ	アドベンチャートラベルの可能性と課題	
科目責任者	川谷 維摩	
担当フェロー	石川 めぐみ（いしかわ めぐみ）	
支援教員	山畑 倫志（やまはた ともゆき） 高等教育推進機構准教授	
キーワード	アドベンチャートラベル・旅行・インバウンド・異文化体験・アクティビティ・自然・体験型観光・持続可能	
目的	2024年の訪日海外客数は、コロナ禍による打撃からV字回復を果たし過去最高を記録したが、その中で有名観光地への一極集中、オーバーツーリズムなどの問題も発生している。これらの解決策の1つとして注目されるのが「アドベンチャートラベル（AT）」。旅行者の持続可能性への関心を踏まえた上で、地域との共存を目指す新たな旅行形態である。北海道でも官民挙げて普及に力を入れているが、交通手段や担い手不足などの課題も明らかになってきている。北海道におけるATの可能性や課題について考え、重要な産業である旅行・観光業の今後に向けて提案を行う。	
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。	
内容	第1回 10月4日 （土）	【新渡戸カレッジ入校式】（9:30～10:30）
		【全体オリエンテーション】（10:45～11:25）ラフェイ副校長、多田幸雄フェロー、川谷維摩、畑中貴美（大講堂）
		【第1回フェローゼミ】（11:35～12:35）【各ゼミでのオリエンテーション】
		第1コマ（13:35～15:05）：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】
		■自己紹介 ガイダンス（ゼミの目的、スケジュールなど説明）
		■講義 「北海道におけるアドベンチャートラベル」石川めぐみ
		第2コマ（15:20～16:50）：【各ゼミでの授業】
	（自主準備）	■グループ分け、リーダー選出
		■グループディスカッション 講義を基に課題のアイデア出しなど
	（自主準備）	●講義内容と参考資料を基に、北海道におけるATの課題について各自考えておく
	第2回 10月18日 （土）	第3コマ（9：00～13：00）：【現地視察】
		■石山緑地とアイヌ文化交流センター（サッポロピリカコタン）視察 9：00 北大発→石山緑地→ピリカコタン 12：20ピリカコタン発→ 13:00北大着
		第4コマ（14：00～15：30）：【ご講義】
	（自主準備）	■北海道宝島旅行社 代表取締役社長 鈴木宏一郎氏のご講義
		●現地視察とご講義を基に、自分が感じたATの可能性と課題についてのレポートを提出
	第3回 10月25日 （土）	第5コマ（10：30～12：00）：
		■グループディスカッション グループの課題の確定、発表内容の大筋組み立て
		第6コマ（13：00～14：30）：
	（自主準備）	■グループディスカッション 中間発表の準備
		●チームごとに関連の情報収集、中間発表の準備
	第4回 11月8日 （土）	第7コマ（10：30～12：00）：
■中間発表 各グループごとに発表 全体での意見交換		
第8コマ（13：00～14：30）：		
（自主準備）	■発表者やデータ担当などの役割決定、中間発表を踏まえての調整・ブラッシュアップ	
	●全体としての成果報告会に向けての準備	
第5回 11月22日 （土）	第9コマ（10：30～12：00）：	
	■12月の報告会に向けての内容準備	
	第10コマ（13：00～14：30）：	
（発表要旨提出）	■12月の報告会に向けての内容準備	
	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/2（火）（予定）	
（発表スライド提出）	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/3（水）（予定）	
	フェローゼミ報告会 12月6日 （土）	（10:00～15:25予定）：【フェローゼミ報告会】 （大講堂） ■フェローゼミの発表、講評、表彰 （15:40～16:40 予定）：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り（各教室）
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。	
参考図書・文献等	北海道経済部観光局「アドベンチャートラベル（AT）について」 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/133558.html 北海道観光振興機構「ADVENTURE TRAVEL HOKKAIDO」 https://visit-hokkaido.jp/adventure-travel/ 観光庁「ATWS2023を契機としたアドベンチャーツーリズムの推進に向けたヒアリング・アンケート調査結果」 https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001734660.pdf 国土交通省北海道運輸局「ATコンテンツ磨き上げについて」 https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/content/000235664.pdf 日本政策投資銀行「アドベンチャーツーリズムを通じた北海道の持続可能な観光地域づくり」 https://www.dbj.jp/upload/investigate/docs/8376f520c8e5b89d474612683be327ea.pdf	
備考：備考：サッポロピリカコタンの入館料（150円）は自己負担となります		

2025年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：1回はS10、第2回～第5回はS4

テーマ	グローバル化の終焉に伴い混迷する世界情勢の中での我国の安全保障		
科目責任者	川谷 維摩		
担当フェロー	石川 裕一（いしかわ ゆういち）		
支援教員			
キーワード	グローバル化の終焉、日米関係史、地政学、地経学、東アジアの情勢、今後の国際社会		
目的	グローバル化の終焉に伴い、国際紛争が頻発する中で我国の平和を維持するためにどのような思考が必要かを学び、我国が取るべき安全保障政策の道を探り、自らの見解を述べられるようにする。		
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。		
内容	第1回 10月4日 (土)	【新渡戸カレッジ入校式】（9:30～10:30）	
		【全体オリエンテーション】(10:45～11:25) ラフェイ副校長、多田幸雄フェロー、川谷維摩、畑中貴美（大講堂）	
		【第1回フェローゼミ】(11:35～12:35) 【各ゼミでのオリエンテーション】	
		第1コマ(13:35～15:05)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 我国を取り巻く世界情勢を分析し、日米関係史を学ぶ 国家の在り方を自衛権を基本に施行する	
		第2コマ(15:20～16:50)：【各ゼミでの授業】 日本の安全保障の基本となる日米関係を再考する 明治維新以降の我国の国内国外紛争を俯瞰する	
		(自主準備)	
	第2回 10月18日 (土)	第3コマ 午前9時集合の後、北部方面真駒内基地視察 陸上自衛隊北部方面視察	
		第4コマ 終了は午後4時ころを想定 陸上自衛隊北部方面視察	
	(自主準備)	自衛隊では北部方面の作戦課長とも意見交換が予定されていますので、質問事項を各自準備する	
	第3回 10月25日 (土)	第5コマ 13時30分～15時 現状の日米関係に関して、元海兵隊幹部ロバート・エルドリッジ氏の講義・質疑応答	
		第6コマ 15時30分～17時 元統合幕僚長河野氏による我国の国防力と近隣の危機の講義、質疑応答	
	(自主準備)	ゼミで準備した、石川ゼミのレジメを確りと精読する、各自グローバル化の終焉に伴う諸問題に関して、特に自らの興味のあるテーマを選定する	
	第4回 11月8日 (土)	第7コマ 9時30分～11時 北海道経済産業局長浦田秀行氏による経済安全保障についての講義、質疑応答	
		第8コマ 12時30分～14時 4～5チームに分かれ、各チームのリーダーを選定したうえで、各チームが決めた本ゼミの内容から選定した研究テーマを選定する。そのうえで、各チームに分かれてブレインストーミングを行う。（テーマの例として、日米関係、日本を取巻く地政学の問題、経済安全保障、自衛隊と憲法、日中問題、北朝鮮問題、グローバル化の問題など） 上記テーマを掘り下げて各人が自らの見解を自らの言葉で述べれるよう準備を行う。	
		(自主準備)	
	第5回 11月22日 (土)	第9コマ 9時30分～11時 各チームによるプレゼンテーションを行う	
		第10コマ 12時30分～14時 各チームのプレゼンテーションを聞いたうえで、全員参加で石川ゼミの発表のテーマを決めて、そのテーマに沿ってブレインストーミングを行い、全体発表のドラフトを作成する	
(発表要旨)	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/2（火）（予定）		
(発表スライド)	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/3（水）（予定）		
フェローゼミ報告会 12月6日 (土)	(10:00～15:25 予定)：【フェローゼミ報告会】 (大講堂) ■フェローゼミの発表、講評、表彰		
	(15:40～16:40 予定)：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り（各教室）		
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。		
参考図書・文献等	添付の通りとします。		
備考：			

2025年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S11

テーマ	持続的な健康(健康)促進、未来の生き方を考える
科目責任者	川谷 維摩
担当フェロー	大友 俊彦（おおとも としひこ）
支援教員	野澤 俊介（のざわ しゅんすけ） 高等教育推進機構准教授
キーワード	健康、医療、公共サービス、福祉、高齢化、街づくり、持続性
目的	医療・福祉の状況をふまえ、健康促進、健康に生きるための課題を考察し、あらゆる年齢の人が健康で暮らせるための社会の在り方を考える
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容	第1回 10月4日 (土) 【新渡戸カレッジ入校式】(9:30～10:30) 【全体オリエンテーション】(10:45～11:25) ラフェイ副校長、多田幸雄フェロー、川谷維摩、畑中貴美（大講堂） 【第1回フェローゼミ】(11:35～12:35) 【各ゼミでのオリエンテーション】 第1コマ(13:35～15:05)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■ ガイダンス（ゼミの目的、スケジュールの説明）、演習テーマ解説 ■ 外部講師による講演：さっぽろウェルネスプロジェクト概要（札幌市ウェルネス推進担当・引地様） 第2コマ(15:20～16:50)：【各ゼミでの授業】 ■ 外部講師による講演：ホクノ健康ステーションにおける取組（(株)ホクノ・小熊様、(株)TOPPAN・本間様） ■ チーム編成、リーダー決め、現地視察・演習に向けた仮設構築・検証方法に関する議論 (自主準備) ●実施検証に向けた準備 第2回 10月18日 (土) 第3コマ（9:00-12:30予定）：【現地視察・いきいきウェルネスフェア @ アクセスサッポロ】 ■ 第1回ゼミでの検討結果をふまえ、実地検証の実施 第4コマ（9:00-12:30予定）：【現地視察・いきいきウェルネスフェア @ アクセスサッポロ】 ■ 実地検証結果のまとめ、考察に関する議論 (自主準備) ●参考文献を含め、各自参考となるような取り組みの調査ならびに課題抽出 第3回 10月25日 (土) 第5コマ（9:15～10:45）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各チームで課題抽出、取り組みの方向性など議論 第6コマ（11:00～12:30）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各チームで課題抽出、取り組みの方向性など議論 (自主準備) ●チームでの資料作成、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション資料の提出 第4回 11月8日 (土) 第7コマ（9:15～10:45）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各グループからのプレゼン発表 第8コマ（11:00～12:30）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各グループからのプレゼン内容に関する意見交換、全体発表に向けた準備 (自主準備) ●最終プレゼンテーション準備、プレゼンテーション資料の提出 第5回 11月22日 (土) 第9コマ（9:15～10:45）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各グループからのプレゼン発表 第10コマ（11:00～12:30）：【ディスカッション・プランニング】 ■ 各グループからのプレゼン内容に関する意見交換、全体発表に向けた準備 (発表要旨) ●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/2（火）（予定） (発表スライド) ●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/3（水）（予定） フェローゼミ報告会 12月6日 (土) (10:00～15:25予定)：【フェローゼミ報告会】 (大講堂) ■フェローゼミの発表、講評、表彰 (15:40～16:40 予定)：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り（各教室）
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等	・『社会的処方 孤立という病を地域のつながりで治す方法』西 智弘 編著（学芸出版社） ・『コミュニティカフェ』- まちの居場所のつくり方、続け方 遠藤 保 著（学芸出版社） ・ホクノ健康ステーション： https://www.hokuno.com/pickup/ https://www.toppan.co.jp/biz/social/case/health02.html ・健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書 https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000495323.pdf ・190万都市、札幌市の人口構造に見る課題 https://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/hokkaido/pdf_all/hokkaido0909_01.pdf ・健康さっぽろ21（札幌市健康づくり基本計画） https://www.city.sapporo.jp/kenko/wellness/kenkodukuri/kenkosapporo21/daisanji.html ・札幌ウェルネスプロジェクト https://www.city.sapporo.jp/kenko/wellness/kikaku/wellness.html ・『「疑う」からはじめる。』-これからの時代を生き抜く思考・行動の源泉 澤 円 著（アスコム） ・図解ビジネスモデル・ジェネレーションワークショップ 今津美樹 著（翔泳社）
備考：	

2025年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S7

テーマ	「学内留学 2.0」更なる進化でパワーアップ	
科目責任者	川谷 維摩	
担当フェロー	多田 幸雄 （ただ ゆきお）	
支援教員	鄭 漢模（じょん はんも） 高等教育推進機構 高等教育研究部 講師	
キーワード	超奇抜で超突飛な発想を重視します。閉塞感の漂う日本社会を変えていくのは、あなたたちだ！	
目的	海外留学に匹敵する研鑽を学内で行うアイデアを学生自身が考え、実践して、大学及び関係教育機関に提言する	
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。	
内容	第1回 10月4日 (土) 【新渡戸カレッジ入校式】(9:30～10:30) 【全体オリエンテーション】(10:45～11:25) ラフェイ副校長、多田幸雄フェロー、川谷維摩、畑中貴美（大講堂） 【第1回フェローゼミ】(11:35～12:35) 【各ゼミでのオリエンテーション】 第1コマ(13:35～15:05)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ■ 全体の概論、自己紹介 ■ 多田フェローの温故知新：「私の海外留学」を題材に自由討論(後で配布)、社会的弱者も考慮した次世代の留学 第2コマ(15:30～17:00)：【各ゼミでの授業】 ■ 鄭 講師から「私の日本留学」、JMOOC国際連携の説明、及びチューターの短期留学の経験から自由討論 ■ 二回目を以降の準備、チーム編成 (自主準備) 第2回 10月18日 (土) 第3コマ(北大高等教育推進機構 8:45 集合、9:00 出発～)：【現地視察】 ■ モエレ沼公園、丘珠空港を周遊。 第4コマ(13:30～15:00)：【現地視察フォローアップ】 ■ 現地視察を踏まえたグループ討論、チーム毎のテーマ設定 (自主準備) 第3回 10月25日 (土) 第5コマ(9:30～11:00)： ■ 外部講師（SHOREKI KOREA 木村正博 代表理事）、ビジネスマンが韓国から見る日韓関係の講演と、意見交換 第6コマ(11:30～13:00)： ■ 外部講師（札幌韓国教育院 朴熙喆 院長 及び 木村正博 代表理事）札幌韓国教育院の活動の解説と、質疑応答 特別セッション(16:00～17:00)：木村正博 代表理事の学生向けセルフキャリア相談会（場所 未定） (自主準備) 第4回 11月8日 (土) 第7コマ(9:30～11:00)： ■ チーム毎に課題の整理・実施・提言の発表に向けた資料準備 第8コマ(11:30～13:00)： ■ 各チームからの中間発表、質疑応答、意見交換 (自主準備) 第5回 11月22日 (土) 第9コマ(9:30～11:00)： ■ 各チームからのプレゼン発表、意見交換 第10コマ(11:30～13:00)： ■ 全体発表に向けた統合準備、プレゼンには全員が参加（No one left behind!） (発表要旨) (発表スライド) フェローゼミ報告会 12月6日 (土) (10:00～15:25 予定)：【フェローゼミ報告会】 (大講堂) ■フェローゼミの発表、講評、表彰 (15:40～16:40 予定)：【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り（各教室）	
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。	
参考図書・文献等	札幌韓国教育院 https://sapporo.kankoku.or.kr/sub/sitemap_jp.php NHK出版新書：『新・古代史』グローバルヒストリーで迫る邪馬台国、やまと王権（日本という国はいかに誕生したか） https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2024/02/Report-FellowZemi-fy2019.pdf 在米NPO法人の活動：https://www.cepex.org/ 海外大学オンライン授業 MOOCs(Massive Online Courses)の勧め：https://kanabroad.com/free-online-class/	
備考	日韓国交正常化60周年（1965年12月18日）：ゼミを通じた研鑽手段として全員で動画の作成・編集能力を高める	

2025年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：S12

テーマ	わたし自身への問いと共創から紡ぐ、持続可能な社会に向けたアイデア発想
科目責任者	川谷 維摩
担当フェロー	萩野 泉（はぎの いずみ）
支援教員	亀野 淳（かめの じゅん） 高等教育推進機構教授
キーワード	ライフスタイル、インサイト、アイデア、生成AI、人工知能対話、持続可能な発展、地域社会活性化
目的	このゼミは「わたし自身への問い」と向き合うことから始まります。ChatGPTとの対話とチームメンバーとの会話を通じて、自分でも気づいていなかった関心や違和感を言葉にしてい—そんな対話の時間がこのゼミの出発点です。 その後、札幌市内の企業や団体を実際に訪問し、社会の現場に触れる中で、自分の問いと社会課題とがどのように接続できるのかを探り、社会にひらかれたアイデアを形にしていきます。 「正解を探す」のではなく「問いと共創から社会を編み直す」プロセスを通じて、持続可能な社会とは何かを自分の言葉で考えることを目指します。
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容	第1回 10月4日 (土) 【新渡戸カレッジ入校式】(9:30～10:30) 【全体オリエンテーション】(10:45～11:25) ラフェイ副校長、多田幸雄フェロー、川谷維摩、畑中貴美（大講堂） 【第1回フェローゼミ】(11:35～12:35) 【各ゼミでのオリエンテーション】 ■フェロー・支援教員・チューター自己紹介 ■ゼミテーマの説明 第1コマ(13:35～15:05)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】 ●事前準備：参考文献の読読/閲覧（★マークは初回までに必須） ■ゼミの説明、自己紹介、各種作業 ゼミテーマの説明（25分）/ゼミ生自己紹介（40分）/チーム分け（5分） ゼミテーマをもとにした個人ワーク/グループディスカッション（20分） 第2コマ(15:20～16:50)：【各ゼミでの授業】 ■ゼミで取り上げるテーマの説明、グループディスカッション ・ゼミテーマを基にした個人ワーク/グループディスカッション（35分：ChatGPTを利用した価値観の深掘り） ・ゴールデンサークル理論に関する動画閲覧（20分） ・グループディスカッション：仮説出し（30分） ・次回オリエンテーション（5分） (自主準備) ●各自情報収集、ゴール設定への仮説検討 第2回 10月18日 (土) 第3・4コマ(09:30～16:00)：【現地視察】 ゲスト講師：札幌市議会議員 波田 大専（ハダ ダイセン）様 09:30北海道大学出発 見学先① サッポロさとらんど：特別座学、サツマイモ収穫体験（要費用：400～500円）、園内自由見学 昼食：サッポロさとらんど内（レストランもありますが基本的には各自持参） 見学先② 札幌市中央卸売市場：座学、市場内見学 16:00北海道大学帰着、解散 (自主準備) ●各自情報収集、ゴール設定への仮説検討 第3回 10月25日 (土) 第5コマ(13:00～14:30)：【グループ内ディスカッション】 ■仮説と現地視察で得た示唆などを基にしたゴール（ありたき生活者/世界の姿）の設定 オリエンテーション（10分）/各自作業（20分）×2回/グループ内ディスカッション（20分）×2回 第6コマ(14:45～16:15)：【グループ内ディスカッション】 ■ゴール（ありたき生活者/世界の姿）の設定と、それを実現する方法の検討 各グループ内でのまとめ（30分）/各自作業（15分）×2回/グループ内ディスカッション（15分） 資料作成にかんするオリエンテーション（15分） (自主準備) ●各自情報収集、発表用資料作成準備

第4回 11月8日 (土)	第7コマ(13:00~14:30):【グループ内ディスカッション・資料作成】 ■設定したゴール(ありたき姿)とそれを実現する方法の検討 グループ内ディスカッション(20分)×2回/各自作業(30分)/資料作成(20分)
	第8コマ(14:45~16:15):【グループ間ディスカッション・資料作成】 ■各グループが考えた内容の発表、意見交換 グループごとに発表・質疑応答(40分)/グループ内ディスカッション(20分)/資料作成・データ収集(30分)
(自主準備)	●発表用資料作成
第5回 11月22日 (土)	第9コマ(13:00~14:30):【グループ間ディスカッション】 ■各グループでまとめた資料を発表し、全体発表会で発表するチームを決める 資料修正、データ収集などの作業(15分)/グループごとに発表・質疑応答(60分)/発表グループの決定(15分)
	第10コマ(14:45~16:15):【グループ間ディスカッション・資料作成】 ■発表チームのアイデアを、ゼミ全体でブラッシュアップする データ収集、アイデア発想、資料修正などの作業(90分)
(発表要旨 提出)	●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切:12/2(火)(予定)
(発表スライド 提出)	●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切:12/3(水)(予定)
フェローゼミ報 告会 12月6日 (土)	(10:00~15:25予定):【フェローゼミ報告会】 (大講堂) ■フェローゼミの発表、講評、表彰
	(15:40~16:40 予定):【フェローゼミ総括】 ■ゼミごとに振り返り(各教室)
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等	★イノベーションに関する動画 https://www.youtube.com/watch?v=CkDH3kW4bUM https://vimeo.com/48997854 ゴールデンサークル理論に関する記事 https://www.rarejob.com/englishlab/column/20190525/ ・SDGs思考 2030年のその先へ 17の目標を超えて目指す世界 ・抽象⇄具体トレーニング ・「わかる」とはどういうことか
備考:	

2025年度 新渡戸学（フェローゼミ）計画

教室：第1回はS4、第2回～第5回はS5

テーマ	スタートアップで社会課題の解決にチャレンジする
科目責任者	川谷 維摩
担当フェロー	廣重 勝彦（ひろしげ かつひこ）
支援教員	
キーワード	成長、リーダーシップ、チームワーク、マーケティング、ファイナンス、ネゴシエーション、コミュニティ
目的	社会課題の解決のため「自分の今の力でどこまで迫れるか？」を試す
到達目標	1. 新渡戸カレッジの目標であるリーダーシップをゼミ活動の中で積極的に発揮することができる。 2. 自分で考え、意見を出し、ともに議論し、明確な結論を導くことができる。 3. ゼミにおける現地での学びを関連分野の知見と結び付けて説明することができる。 4. ゼミのテーマのもと、持続可能な社会の実現に向けて自らの考えを表現することができる。
内容	
	【新渡戸カレッジ入校式】(9:30～10:30)
	【全体オリエンテーション】(10:45～11:25) ラフェイ副校長、多田幸雄フェロー、川谷維摩、畑中貴美（大講堂）
	【第1回フェローゼミ】(11:35～12:35) 【各ゼミでのオリエンテーション】
	第1コマ(13:35～15:05)：【各ゼミでのオリエンテーション・授業】
	■スタートアップとは何か？ なぜ、いまスタートアップが重要なのか？
	■スタートアップの組み立て方
	第2コマ(15:20～16:50)：【各ゼミでの授業】
	■スタートアップのアイデア出しと討議
	■最初のピッチ（プレゼン）にチャレンジ
	（自主準備） ●企業経営者への質問や、確認したい案件をまとめておく
	第2回 10月18日 （土）
	第3コマ（12:00～13:30）：【現地視察】（北海道大学ワイン教育研究センター）
	■大学内のスタートアップを体験（株式会社インバウンドテック代表取締役東間大氏）
	第4コマ（13:45～18:00）：【現地視察】（エア・ウォーターの森、農学部、スマート農業センター、第一農場）
	■実際のスタートアップ経営者と対談（株式会社インバウンドテック代表取締役東間大氏）
	（自主準備） ●当初のアイデアと現実のギャップを確認する
	第3回 10月25日 （土）
	第5コマ（9:00～10:30）：PDCA
	■現地視察での経営者の意見をもとに、当初のアイデアを練り直す
	第6コマ（10:45～12:15）：プロトタイプ
	■実際にリリースする製品・サービスを作る
	（自主準備） ●どのように販売するか、どこに行きリサーチするかを考える
	第4回 11月8日 （土）
	第7コマ（9:00～10:30）：マーケティング
	■現場に行き製品・サービスが本当に受け入れられるのか（課題解決になっているのか）をリサーチする
	第8コマ（10:45～12:15）：スケール
	■自分の事業を、日本全国や世界で展開できるようにバージョンアップする
	（自主準備） ●最終ピッチに向けて追い込んでみる
	第5回 11月22日 （土）
	第9コマ（9:00～10:30）：ゴール
	■ゼミ内最終ピッチ大会
	第10コマ（10:45～12:15）：チーム結成
	■最終ピッチの総括 フェローゼミ発表会への準備
	（発表要旨提出） ●ゼミ代表グループの発表要旨を提出 締切：12/2（火）（予定）
	（発表スライド提出） ●ゼミ代表グループの発表スライドを提出 締切：12/3（水）（予定）
	フェローゼミ報告会 12月6日 （土）
	（10:00～15:25予定）：【フェローゼミ報告会】（大講堂）
	■フェローゼミの発表、講評、表彰
	（15:40～16:40 予定）：【フェローゼミ総括】
	■ゼミごとに振り返り（各教室）
成績評価の基準と方法	出席、授業、レポートを通して到達目標の達成を合・否で評価する。
参考図書・文献等	『後世への最大遺物・デンマルク国の話』（内村鑑三著、岩波文庫） 『ファースト&スロー』（ダニエル・カーネマン著、ハヤカワ文庫） 『サビエンス全史』（ユバル・ノア・ハラリ著、河出文庫） 『恐竜まみれ一発掘現場は今日も命がけー』（小林快次著、新潮文庫） 『起業の科学 スタートアップサイエンス』（田代雅之著、日経BP社） 『人を動かす』（カーネギー著、創元社） 『風の歌を聴け』『1973年のビンボール』『羊をめぐる冒険』（講談社文庫『村上春樹、講談社文庫）
備考：「課題解決のための素晴らしいアイデア」はいまや、AIが瞬時にたくさん導き出してくれます。言い換えれば、解決策を考えるだけなら誰でもできます。ポイントは、自分がその解決策を現実の世界でトライしてみることです（アイデア出しにとどまらず、それを実現すべく「行動」してみることです）。それは、AIにはできません。 といえ、ゼミの時間内には最終的な課題解決には届かないかもしれませんが、それでも、解決に向けてトライしたことは、ゼミ生の人生にとって大きな財産になります。計画すること、社会に出て行動すること、他人と一緒に行動してみること、人と折衝することを、3か月弱の短い期間ですが真剣に取り組んでみて下さい(もちろん、計画立案やデータの収集分析などでは、AIをしっかり活用していただきます)。それがゼミ生の大きな成長につながることは、過去の私のゼミで実際に見てきました。では、皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。	

2025 年度「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」実施報告

【実施目的】

セルフキャリア発展ゼミは、合宿を含む継続的なセミナーであり、日常とは異なる空間での自己の洞察、仲間（新渡戸カレッジ生とフェロー）とのコミュニケーション、アクティブラーニングを通して、自らの未来を構築していくための力を養うことを目的とする。

【目標】

- ・ 新渡戸カレッジ生が社会の現状を認識し、社会との関連のなかで自分自身の可能性を認識し、自らの未来を構築していく力を身につける。
- ・ 学生が自ら目標を設定し、実現に向けたプロセスを考え、実行する。また、教員とフェローの助言を受けながら確認し、継続的に取り組む。
- ・ 新渡戸コミュニティにおける教員、フェロー及び学生同士のコミュニケーションから、学生が自分の目標の実現に向けて取り組む際の手がかりを得る。
- ・ 持続的な取り組みを通して、将来社会や組織のリーダーに成長するための基本的な考え方とスキルを習得する。

【2025 年度実施状況】

今年度のセルフキャリア発展ゼミは、5月17日に学内で第1部を実施し、6月28日から29日にかけて北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川において合宿形式の第2部を実施した。新渡戸カレッジ・オナーズプログラム履修生28名に加え、フェロー6名、新渡戸カレッジ卒業生のOB・OG4名、チューター4名、教員3名が参加した。特に合宿では、新渡戸カレッジ卒業生が在学中の活動経験が現在のキャリア形成にどのような影響を与えているかについて具体的に語り、履修生と共有する機会を設けた。

履修者数	学部		学年
合計 28 名	工学部	5 名	2 年生（20 名）
	理学部	1 名	3 年生（3 名）
	農学部	4 名	4 年生（4 名）
	経済学部	2 名	修士 1 年生（1 名）
	文学部	4 名	
	法学部	3 名	
	水産学部	1 名	
	教育学部	3 名	
	獣医学部	1 名	
	医学部	2 名	

	薬学部	1名	
	農学院	1名	

*履修生 28 名のうち、「新渡戸学」単位取得者 26 名

実施日時	内容
5 月 17 日	ゼミ第 1 部（学内ワークショップ）
6 月 28 日～29 日	ゼミ合宿（北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル深川）
9 月 27 日	フォローアップゼミ 1 回目（Zoom・履修生任意参加）
9～11 月	学生伴走グループ MTG（Zoom・チューター主導・履修生任意参加）
11 月 29 日	フォローアップゼミ 2 回目（学内ワークショップ・履修生任意参加）

【2025 年度セルフキャリア発展ゼミの様子】

○第 1 部（5 月 17 日）



○第2部（6月28日・29日）



○対面フォローアップ（11月29日）



(2) 大学院カリキュラム

令和7年度(2025)

プレプログラム科目(前期)実施状況

No.	科目名	単位数	頁
①	グローバル実践科目Ⅰ(チーム学習の基礎)	2	34
②	グローバル実践科目Ⅱ(チーム学習の実践)	2	36

春ターム「グローバル実践科目Ⅰ」(チーム学習の基礎) 実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

授業担当教員 : Marina Lomaeva (高等教育推進機構)

ティーチングアシスタント (TA): 阿部麟太郎 (大学院文学院)、楊梓桐 (大学院環境科学院)

2. 履修者数 41 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、専門分野の異なる学生が協働でプロジェクトに取り組むことを通じて、協働への貢献に必要なとなる学生個々の能力を向上させるとともに、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける課題を実施する。これらの能力の修得・向上を目指す知識とスキルには、「3+1 の力」に加え、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキングなどの思考法、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーション、プレゼンテーションなどが含まれる。

(2) 授業目標

- 新渡戸カレッジの教育理念と学修目標を理解する。
- コミュニケーションスキル、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーションなど個々の能力を向上させる。
- リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける。
- 異なる専門性を持つ学生との協働を通じて、自らの専門性を相対化することで、その重要性への理解を深めるとともに、他の専門性の価値を認識する。
- 現在、また将来において、専門家として求められる倫理観を養い、自らの考え、行動が持つ社会への影響と社会への貢献に対する意識を高める。

4. 実施状況

(1) 前年度の授業内容から大きな変更点はないが、学生の理解促進を目的として、講義内容をより細分化した単元で構成するモジュール化を導入した。加えて、各授業に対応した字幕付き講義動画を作成し、学生が授業内容を正確に復習できる環境を整備した。履修生からのフィードバックは概ね好評であり、特に講義動画に関しては、スライド資料よりも有益であるとの意見が多数寄せられた。

(2) 「専門職倫理」(グローバル実践科目Ⅱの初回授業も兼ねる)の授業では、FD研修会での Ph.Discover との連携をさらに強化し、EXEX 学生も参加可能な公開授業として実施した。授業は、火曜・木曜日に開講され、博士課程の学生 13 名が参加した。博士課程学生および新渡戸カレッジの学生から非常に肯定的な評価が寄せられ、教育効果の高さが確認された。

5. ポスター・画像



Nitobe College Honors Program: Graduate Curriculum presents

War and Ethics: Research, Development, and Dual Use

Can your research be misused? This **Nitobe College open class on Professional Ethics** explores the dilemmas surrounding war, technology, and dual-use research. By participating in interdisciplinary projects during class, you will gain a deeper understanding of how your research may have unintentional military applications. Join us!

2025 **6/17** TUE
16:30~19:45

場所 Venue Room S5 (1F), S-Building, Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University
北海道大学 高等教育推進機構S講義棟S5教室

開催方法 Format Face-to-face
対面のみ

英語 Language 英語 English

対象 Target Hokkaido University
Graduate Students
北海道大学の大学院生

登録 Registration
Please scan the following QR code for more information.
Deadline: 2025.06.16

講師 Lecturer



Prof. Shunao Majima
Institute for Liberal Arts,
Institute of Science Tokyo



Nitobe College Honors Program: Graduate Curriculum presents

Cultural Norms "vs." Ethical Norms? Thinking about Ethics and Tolerance in a Global Society

Global Ethics: Right, Wrong, or Relative? This **Nitobe College open class on "Professional Ethics"** helps you navigate the tension between cultural norms and universal ethical truths. By engaging with real-world case studies and participating in class discussions, you can enhance your ethical reasoning and address complex global issues with sensitivity and critical insight. Join us!

2025 **6/19** THU
16:30~19:45

場所 Venue Room S5 (1F), S-Building, Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University
北海道大学 高等教育推進機構S講義棟S5教室

開催方法 Format Face-to-face
対面のみ

英語 Language 英語 English

対象 Target Hokkaido University
Graduate Students
北海道大学の大学院生

登録 Registration
Please scan the following QR code for more information.

Deadline: 2025.06.18

講師 Lecturer



Dr. Richard Stone
Department of Design
and Data Science,
Tokyo City University



夏ターム「グローバル実践科目Ⅱ」(チーム学習の実践) 実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

授業担当教員 : Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、岩崎晋弥 (大学院地球環境科学研究院)、
Travis Scrimshaw (大学院理学研究院)

ティーチングアシスタント (TA): 阿部麟太郎 (大学院文学院)、楊梓桐 (大学院環境科学院)

2. 履修者数 38 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、専門分野の異なる学生が協働でプロジェクトに取り組む。「グローバル実践科目Ⅰ」で体得した知識やスキルを応用し、具体的な課題解決のプロジェクトに取り組むことによって、プロジェクトマネジメントの基礎的知識とスキルを身につける。

(2) 授業目標

- プロジェクトマネジメントの重要性を理解する。
- プロジェクトマネジメントの基礎知識とスキルを体得し、現在大学院で実施している研究も含めて応用できる。
- チームプロジェクトの実行を通して、「グローバル実践科目Ⅰ」で体得・向上させた能力やスキルに関する応用力を高める。

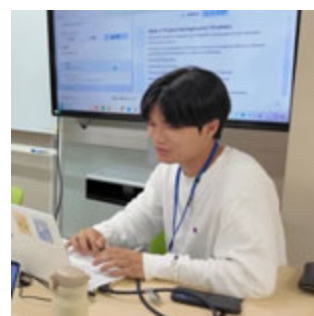
4. 実施状況

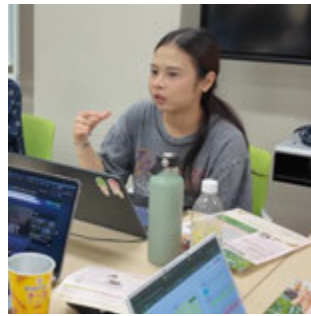
(1) 昨年度の授業では、プロジェクトマネジメントにアジャイル・アプローチを導入した。この試みは成功裏に終わったものの、その内容が「グローバル発展科目Ⅰ(課題解決の実践)」において教授される概念と重複することが判明した。そのため、今年度からは従来通りウォーターフォール・アプローチを中心とした構成に戻し、授業の冒頭で両アプローチの比較を簡潔に紹介する形式がより適切であると判断した。

(2) 以下、「グローバル実践科目Ⅰ」から引き続き実施した内容：

- 学生の理解促進を目的として、講義内容をより細分化した単元で構成するモジュール化を導入。
- 各授業に対応した字幕付き講義動画を作成し、学生が授業内容を正確に復習できる環境を整備。

5. ポスター・画像





Nitobe College presents the Final Presentations of Pre-program

Open Hokkaido: Improving Access for Global Travelers

How can we solve Hokkaido's tourism challenges? In the **Final Presentation of Global Practical Course II**, students will explore the dilemmas surrounding travel in Hokkaido. Utilizing the project management skills learnt throughout the course, students will present their interdisciplinary projects for improving access for global travelers. Join us to see their solutions!

2025 **8/5** TUE
17:15~19:45

場所 Venue Room 55 (1F), 5-Building, Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University
北海道大学 高等教育推進機構5課55教室

開催方法 Format Face-to-face
対面のみ

言語 Language 英語 English

対象 Target Students & Faculty of Hokkaido University
北海道大学の学生と教員

詳細 Details
Please scan the following QR code for more information.



外部講師 Guest Speaker



Dr. Michal Mazur
Education Development and Learning Support Center,
Ritsumeikan Asia Pacific University



Nitobe College presents the Final Presentations of Pre-program

Fighting for Information and Truth on Social Media

How can we counteract social media mis/disinformation? In the **Final Presentation of Global Practical Course II**, students will explore the dilemmas surrounding the spread of false narratives online. Utilizing the project management skills learnt throughout the course, students will present their interdisciplinary projects to counteract mis/disinformation on social media. Join us to see their solutions!

2025 **8/7** THU
17:15~19:45

場所 Venue Room 55 (1F), 5-Building, Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University
北海道大学 高等教育推進機構5課55教室

開催方法 Format Face-to-face
対面のみ

言語 Language 英語 English

対象 Target Students & Faculty of Hokkaido University
北海道大学の学生と教員

詳細 Details
Please scan the following QR code for more information.



外部講師 Guest Speaker



Dr. Michal Mazur
Education Development and Learning Support Center,
Ritsumeikan Asia Pacific University



令和 7 年度（2025）

北海道大学新渡戸カレッジ

オーナーズプログラム大学院カリキュラム（前期）および FD 実施状況

No.		科目名	単位数	頁
①	必修科目	グローバル発展科目Ⅰ（課題解決の実践）	2	39
②	選択科目	グローバル発展科目Ⅱ（課題発見の基礎と実践）	2	41
③	選択科目	新渡戸カレッジ特別演習： セルフキャリア発展ゼミ（大学院）	1	43
④	選択科目	新渡戸カレッジ特別演習： アントレプレナーシップ	1	44
⑤	選択科目	新渡戸カレッジ特別演習： デモーラ（企業課題解決演習）	2	45

春ターム「グローバル発展科目Ⅰ（課題解決の実践）」実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、谷博文 (大学院工学研究院)
授業担当教員 : Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)、サウナワーラ ユハ (北極域研究センター)
ティーチングアシスタント (TA) : Eman Hussein Elsayed Touliah (大学院工学院)、
Ahmed Abd Alraheem Suliman ESAA (大学院工学院)

2. 履修者数 14 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムは、グローバル社会で活躍するために必要不可欠となる「3+1 の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理)を身につけたプロフェッショナル人材の育成を目標としている。この目標達成のために本科目では、専門性の異なる学生がチームを組み、それぞれの専門性の強みを活かした協働を通して、与えられた課題に対して解決策を提案する。原因、先行事例の調査や論拠となるデータを課題のコンテキストに即して分析し、異なるアイデアを統合して、独創的な解決案を創出する。また、ビジネスプラン等の検討を通して解決策を実行可能になるかを考え、対ステークホルダーを想定したプレゼンテーションを行う。

(2) 授業目標

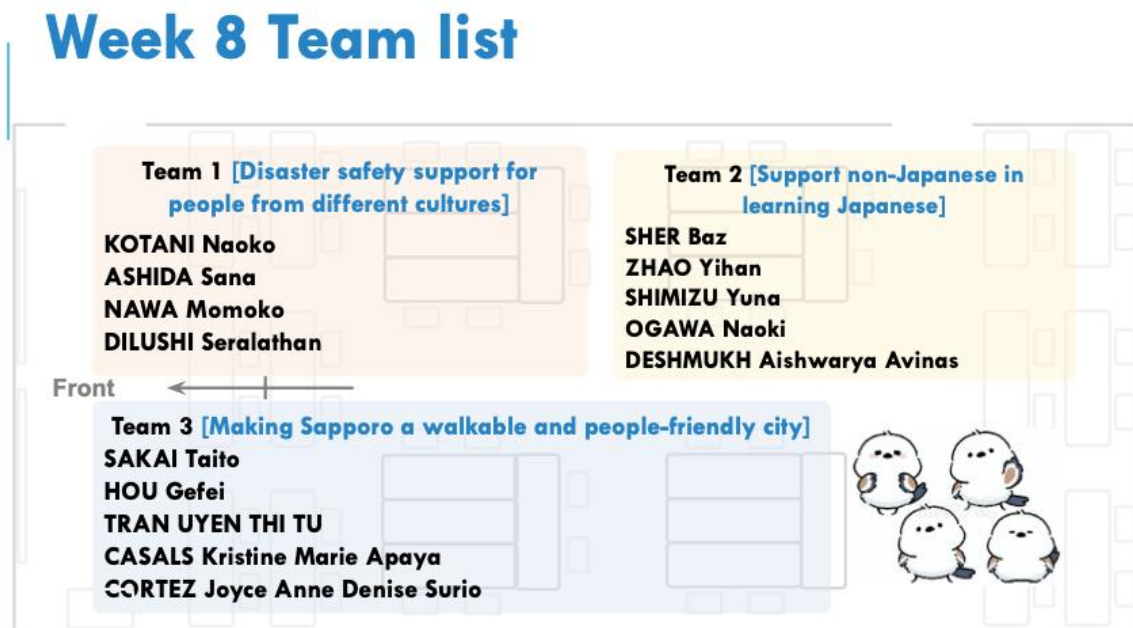
- ・ 具体的な課題の解決に向けた生産的協働のためのチームマネジメント(役割の明確と実践)ができる。
- ・ 提示された課題に対して、先行事例、類似事例に関する適切な二次資料の収集および課題の背景とコンテキストに照らした批判的な比較分析ができる。
- ・ 解決策の提案に必要な調査・分析手順を設計し、それに伴う時間管理ができる。
- ・ 得られたデータや情報とそれらの論理的解釈に基づいた説得力のあるプレゼンテーションができる。
- ・アントレプレナーシップ(起業家精神)について理解を深めることができる。

4. 実施状況

- (1) 今年度は札幌市と連携して、札幌市総務局国際部が取り組んでいる課題(日本人・外国人の市民に共通するもの)を提示していただき、それらの課題の中から学生自身が選択してチームで取り組んだ。第4回授業の中間報告において教員がコメントを提供し、学生はそのフィードバックをもとに解決策をさらに磨き、必要に応じて追加調査を実施した。最終回の公開授業では札幌市からの7名のゲストをお招きして課題取り組みの成果発表を行い、ゲストや外部講師、教員からコメントを受けた。
- (2) 最終回の授業では、外部講師として堀尾佳以先生(宇都宮大学)をお招きした。堀尾先生は、留学生の日本語教育(特に工学系留学生のための専門日本語教育)、異文化間コミュニケーション、問題解決型学習(特にSTEAM教育におけるPBL)および留学生の就職活動支援を専門としている。宇都宮大学工学部において、日本人学生と留学生が混成チームを組み、PBL(問題解決型学習)を実施する教育プログラムを推進しており、その取り組みは新渡戸カレッジの教育内容と多くの共通点を持つ。この授業では、将来のキャリアにおいてチームワークを活かした課題解決をより効果的に行うための助言を講演形式で実施していただくとともに、学生のプレゼンに対してコメントをいただいた。

(3) アン Entrepreneurship (起業家精神) について理解を深めるために、第3回と第6回授業で担当教員のユハ先生より、Entrepreneurship: Transitioning from scholar or student to entrepreneur / Being scholar and entrepreneur simultaneously と題して講義を実施していただいた。これらの授業は学生から高く評価され、起業についての考え方、取り組み方を理解するうえで大いに役立ったというコメントが数多く寄せられた。

5. 最終回授業のスライド抜粋；各チームが取り組んだ課題



夏ターム「グローバル発展科目Ⅱ（課題発見の基礎と実践）」実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、谷博文 (大学院工学研究院)

授業担当教員 : Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)、OSPINA Alarcon Ricardo (大学院農学研究院)

ティーチングアシスタント (TA) : Eman Hussein Elsayed Touliabah (大学院工学院)、

Ahmed Abd Alraheem Suliman ESAA (大学院工学院)

2. 履修者数 14 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、与えられたテーマについてフィールド調査によって収集した一次データを分析して、解決すべき問題の発見や自明とされる問題の批判的な検討を行う。また調査結果を的確にまとめて一般公開の場で発表し、プロジェクトの結果を社会（調査の協力者・対象者含む）に還元することによって、自らの専門性が持つ社会への影響力、専門職倫理への意識を高める。調査研究などアカデミックなものにとどまらず、すべてのプロジェクトは「問い」すなわち問題の設定からスタートする。あえて、問題発見をプログラムの締めくくりに取り組むことで、将来のキャリア形成に不可欠な「問うこと」の重要性を再認識し、意義のある問題を設定するために必要な能力を身につける。

(2) 授業目標

- ・ 意義ある問題の発見に向けて、きっかけとなる問いの設定、調査地・調査対象の選定、調査方法の検討など調査計画を立てることができる。
- ・ 培ってきたコミュニケーション能力を活用し、参与観察、インタビュー、フォーカスグループ、調査などを実施することができる。
- ・ 調査の過程で発生する倫理的な問題を想定した準備を行うことができる。また、問題が発生した場合、適切に対処できる。
- ・ 収集したデータを整理し、コンテキストに照らして客観的に分析して、議論を組み立てることができる。
- ・ 調査・研究の成果を発表し、また求めに応じてプロジェクトの参加者・協力者、その他広くステークホルダーに適切に開示することができる。

4. 実施状況

(1) コースワーク

GAI においてチームで選んだ問題領域について、文献レビューを行い、ギャップや見落とされた問題を特定し、研究仮説を立て、フィールド調査を計画・実行し、データを分析して証拠に基づいた結論を導く、という研究に焦点を当てたプロジェクトに取り組んだ。コースワークを通じて、構造化された課題発見の方法と、複雑な問題を批判的に評価し、研究方法論を適応させて革新的な解決策を提案する能力の向上を目指した（能力更新力）。学生はデータ収集、分析、ステークホルダーや協力者の前で研究結果を発表するなどの作業を協働して進めた。

履修生は GAI と同様に 3 つのチームに分かれ、以下のテーマで第 4 週の授業で研究計画を発表し、第 5～7 週に対面とオンラインでアンケート調査やインタビュー等を行った。フィールドワークは各チームで作成した計画に沿って行い、最終的に google ドキュメントにチームレポートとして記録を残した。

第 2 週のメンターフォーラム、第 4 週の間接報告、最終回の公開授業では、Eric メンターに参加してい

ただき、ショートレクチャーや中間・最終発表へのコメントをいただいた。

なお、GAI の成果については学術会議で学生が報告を行う予定となっている。

- ・ Making Disaster-Safety Easy for Everyone : A Popular Character Approach—Snow Miku Leads Disaster Preparedness Outreach in Sapporo
- ・ Attracting More International Students & Providing Settlement Support in Sapporo
- ・ Co-Creating a Walkable Winter Sapporo: Barriers, Incentives, and Youth Insights

(2) メンターフォーラム

6 月 15 日に第 20 回（2025 年度第 1 回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催した。今回のフォーラムのテーマは「大学院修了者のキャリア機会 — 産・学・官のどれを選ぶ？」（Career opportunities for degree holders: academia, public or private sector?）とした。本フォーラムは、新渡戸カレッジ大学院オナーズプログラム履修生を主な対象として実施され、実務の第一線で活躍する 4 名のメンターが参加した。第 1 部では、メンターが大学院で培った知識・スキルを現在のキャリアにどう活かしているかを語り、学生たちは多様な進路の在り方を学ぶ貴重な機会となった。その後のパネルディスカッションでは、メンターと参加者による活発な議論が行われた。多様な専門性や立場をもつメンターからの実践的で率直なアドバイスは、今後のキャリア設計に向けた具体的なヒントとなったとの声が多く寄せられた。第 2 部では、履修生が各メンターと直接対話できるメンター交流会が開かれ、個々の関心や悩みに応じた助言を受ける機会となった。

(3) 最終(公開)授業

最終回の公開授業では、3 チームによる取り組みの発表が行われた。外部講師の Eric メンター、GAI 同様に札幌市からも 7 名のゲストらが参加して、各チームの発表に対して多くのコメントが寄せられた。その後、Eric メンターによる講演が行われた。所属する日立製作所における国際的な人材集めのための取り組みや Co-Creation のアプローチについて紹介された。

5. メンターフォーラムのポスターと写真



春・夏ターム「新渡戸カレッジ特別演習：セルフキャリア発展ゼミ（大学院）」実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : ラフェイ ミシェル ケイ (大学院文学研究院)

新渡戸カレッジ (大学院) 担当: 谷博文 (大学院工学研究院)、Marina Lomaeva (高等教育推進機構)、
Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

2. 履修者数 1 名 (合格)

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

この授業は、合宿を含む継続的なセミナーであり、日常とは異なる空間での自己の洞察、仲間（新渡戸カレッジ生とフェロー・メンター）とのコミュニケーション、アクティブラーニングを通して、自らの未来を構築していくための力を養うことを目的とする。

(2) 授業目標

- 新渡戸カレッジ生が社会の現状を認識し、社会との関連のなかで自分自身の可能性を認識し、自らの未来を構築していく力を身につける。
- 学生が自ら目標を設定し、実現に向けたプロセスを考え、実行する。また、教員とフェローの助言を受けながら確認し、継続的に取り組む。
- 新渡戸コミュニティにおける教員、フェロー及び学生同士のコミュニケーションから、学生が自分の目標の実現に向けて取り組む際の手がかりを得る。
- 持続的な取り組みを通して、将来社会や組織のリーダーに成長するための基本的な考え方とスキルを習得する。

4. 実施状況

(1) 実施日時

期間 : 2025 年 5 月 17 日(土)~6 月 29 日(日)

曜日(時限) : 集中

(2) 授業内容

今年度の本科目は、学内にて以下のスケジュールで行われた。フェローの講話のほか、これまでセルフキャリア発展ゼミに参加した卒業生の OB・OG も合宿に参加し、新渡戸カレッジでの活動、特にセルフキャリア発展ゼミに参加した経験が現在のキャリアにどのような影響をもたらしたのかなどについて、履修生と共有した。

- ゼミ第 1 部 (5 月 17 日): オリエンテーション・アイスブレイキング・お互いを知る、キャリアモデルを知ろう、近未来の職業世界
- ゼミ第 2 部 (6 月 28 日~29 日): 社会の雇用事情、新渡戸カレッジと私のキャリア、フェロー物語 & 学生交流、学生によるグループワーク、スキル評価、行動計画を立てる

夏ターム「新渡戸カレッジ特別演習：アントレプレナーシップ」実施状況

1. 担当教員

科目責任者：前仲勝実（大学院薬学研究院）

新渡戸カレッジ責任教員：谷博文（大学院工学研究院）、Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、
Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）

2. 履修者数 履修者なし

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

現在の急速に発展している世界では、さまざまな分野において企業間で激しい競争が繰り広げられている。その中で、課題を解決するための新しい案を作り出す能力は不可欠なスキルである。また、チームワークで協調し、より良い結果を提供する能力はすべての企業に必要なスキルである。本授業では学生に、解決策を視覚化し、チームで協働する方法を提供する。特にヘルスケア分野での世界で最も影響力のある課題について解決に取り組む。また本講義では、ビジネスモデルキャンパスの概念も紹介する。本講義を通して学生は、将来のスタートアップや、企業での新しい製品・サービスの立ち上げの際に使用されるビジネスモデルを視覚化することが可能になる。

(2) 授業目標

学生は以下の能力を身につける。

- ヘルスケア業界の最新トレンドについての理解
- ビジネスモデルと計画を視覚化するためのツールとしてビジネスモデルキャンパスの理解
- レゴシリアスプレイを利用して、アイデアや解決策の視覚化
- さまざまなバックグラウンドを持つチームメンバーと協力して、さまざまな解決策を立案
- 製薬業界のビジネスと創薬のプロセスの基本的な理解
- コミュニケーションスキルを高め、アイデアを異なる方法で提示
- 世界中のさまざまな国の研究者仲間と強力なネットワークを構築

4. 実施状況

(1) 実施日時

期間：2025年8月7日(木)～8日(金)

曜日(時限)：集中

回数：全2回

場所：北海道大学 薬学部 管理研究棟 2階 N201・N202

(2) 授業内容

大学院共通授業科目（一般科目）：複合領域と Hokkaido サマー・インスティテュート「創薬科学特別講義 II（バイオ・ヘルスケアアントレプレナーシップ・ワークショップ）」として開講しており、以下の講義と実践的なワークショップで構成されている。

1. はじめに、2. 創薬開発のケーススタディ、3. 医療機器開発のケーススタディ、4. 起業家精神の紹介とスタートアップ企業のケーススタディ、5. ビジネスモデルキャンパスの紹介、6. アイデア創出ワークショップ、7. グループワーク：ビジネスモデルの立案、8. グループワーク：アイデアとプレゼンテーションの作成、9. グループワークの最終発表

春・夏ターム「新渡戸カレッジ特別演習：デモラ（企業課題解決演習）」実施状況

1. 担当教員

科目責任者：金子純一（大学院工学研究院）

新渡戸カレッジ責任教員：谷博文（大学院工学研究院）、Marina Lomaeva（高等教育推進機構）、
Dale Lee Whitfield（高等教育推進機構）

授業担当教員：椎名希美（産学・地域協働推進機構）

2. 履修者数 履修者なし

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本授業は、フィンランド発祥の DEMOLA の教育プログラムを活用して、アントレプレナーシップ/イントレプレナーシップの思考・行動アプローチを実践的に学び、体得することをめざすプログラムである。学生は、2ヶ月間、フード&メディカル国際拠点で開催されるオープンイノベーション手法のワークを受けながら、学生と企業人で構成するチームの一員として、企業が抱えるビジネス上の課題の解決モデルを組み立てる。

(2) 授業目標

- DEMOLA プログラムへの参加を通して、ビジネスモデルの設計・具体化・検証のサイクルを学び、その加速化によって、イノベーションを起こすために求められる思考と行動の習慣を身につける。
- 実際の企業の課題を解決に導く、精度の高いビジネスアイデアを立案するアプローチを学ぶ。
- 企業の課題が根ざしている社会的な構造と、世界的規模で直面する未来のトレンドを理解し、よりインパクトの大きいビジネスモデルに磨きあげるメソッドを体得する。
- 知的財産権の価値に気づき、管理・運用するスキルを学ぶ。

4. 実施状況

(1) 実施日時

期間：2025年4月5日(土)～5月24日(木) (1st バッチ)
：2024年8月9日(土)～10月6日(月) (2nd バッチ)

曜日(時限)：集中

回数：全5回（各バッチ）

場所：北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点、オンライン併用

(2) 授業内容

学生と企業人でチームを構成し、企業が抱えるビジネス上の課題解決の提案と、参加企業の前での最終プレゼンを行った。提案されたアイデアを課題提出企業が採用し、ライセンス契約をするケースもある。1st、2nd バッチ参加企業と課題は以下のとおりである（2nd バッチは現在進行中）。



令和 7 年度（2025）

北海道大学新渡戸カレッジ

オーナーズプログラム大学院カリキュラム（後期） 実施状況

No.		科目名	単位数	頁
①	主要科目	グローバル発展科目Ⅰ（課題解決の実践）	2	47
②	選択科目	グローバル発展科目Ⅱ（課題発見の基礎と実践）	2	49
③	選択科目	新渡戸カレッジ特別演習： デモーラ（企業課題解決演習）	2	51
④	選択科目	新渡戸カレッジ特別演習： ハルトプライズチャレンジ	2	52

秋ターム「グローバル発展科目Ⅰ」（課題解決の実践）実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : WHITFIELD Dale Lee (高等教育推進機構)

授業担当教員 : BOMME GOWDA SIDDABASAVE GOWDA (大学院保健科学研究院)

ティーチングアシスタント (TA) :

阿部麟太郎 (大学院文学院)、ESAA Ahmed Abd Alraheem Suliman (大学院工学院)

2. 履修者数 26 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

この科目では、新渡戸カレッジの「3+1 の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力および専門職倫理)を身に付けることにより、グローバル化する世界で成功するために必要不可欠なリーダーシップ、チームワーク、コミュニケーションスキルを身につけることを目標としている。本科目では創造的かつ批判的な思考を実践し、目標を設定し、計画を立て、課題に適応する力を養い(能力更新力)、チームを形成し、議論し、共通の目標を達成するために協働し(組織形成力)、異文化コミュニケーションや課題解決に取り組むことで、知識を共有し、社会に還元する解決策を学ぶ(社会還元力)。さらに、異なる文化や視点を尊重しながら、公平かつ公正な決断を下す能力を学ぶ(専門職倫理)。

(2) 授業目標

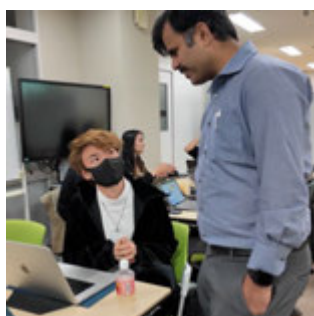
- 具体的な課題の解決に向けた生産的協働のためのチームマネジメント(役割の明確と実践)ができる。
- 提示された課題に対して、先行事例、類似事例に関する適切な二次資料の収集および課題の背景とコンテキストに照らした批判的な比較分析ができる。
- 解決策の提案に必要な調査・分析手順を設計し、それに伴う時間管理ができる。
- 得られたデータや情報とそれらの論理的解釈に基づいた説得力のあるプレゼンテーションができる。
- アントレプレナーシップ(起業家精神)について理解を深めることができる。

4. 実施状況

(1)「3+1 の力」を構成する 27 の観点に基づく、新たなコンピテンシー評価モデルを導入した。具体的には、授業で習得したフレームワークや手法に基づくレポート形式の形成的評価(2回)と、授業内でのチームワークへの貢献度およびプレゼンテーションにおける解決策の提案を対象としたパフォーマンス評価(2回)を実施し、知識の習得だけでなく、学生の実践的な能力向上を多角的に測定・評価する体制を整備した。

(2)昨年度導入し成果を上げた「デザインスプリント」および最終発表における「ビジネスピッチ」の枠組みを継続しつつ、今年度はさらに、デザインスプリントと共通のフレームワークに基づく「ファウンデーション・スプリント(Foundation Sprint)」を新たに導入した。この初期段階での集中的な取り組みにより、課題の深掘りとアイデア検証が強化され、結果として、従来と比較して格段に具体性が高く、論理的根拠に基づいたプロジェクト成果が創出された。

5. 授業風景



冬ターム「グローバル発展科目 II」(課題発見の基礎と実践) 実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : WHITFIELD Dale Lee (高等教育推進機構)

授業担当教員 : 三浦篤志 (大学院理学研究院)

ティーチングアシスタント (TA) :

阿部麟太郎 (大学院文学院)、ESAA Ahmed Abd Alraheem Suliman (大学院工学院)

2. 履修者数 26 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目は、学生が課題発見のプロセスに取り組むことで高度な研究スキルを身に付けることを目標とする。問題発見は、現実の課題に取り組むための意味のある研究課題を見つけ出し、定義するための重要なステップである。新渡戸カレッジの「3+1 の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力および専門職倫理)に沿って、学術的、専門職的、社会的文脈において成功するために必要なスキルを学生に提供する。

(2) 授業目標

- 意義ある問題の発見に向けて、きっかけとなる問いの設定、調査地・調査対象の選定、調査方法の検討など調査計画を立てることができる。
- 培ってきたコミュニケーション能力を活用し、参与観察、インタビュー、フォーカスグループ、調査などを実施することができる。
- 調査の過程で発生する倫理的な問題を想定した準備を行うことができる。また、問題が発生した場合、適切に対処できる。
- 収集したデータを整理し、コンテキストに照らして客観的に分析して、議論を組み立てることができる。
- 調査・研究の成果を発表し、また求めに応じてプロジェクトの参加者・協力者、その他広くステークホルダーに適切に開示することができる。

4. 実施状況

- (1) 「3+1 の力」を構成する 27 の観点に基づく、新たなコンピテンシー評価モデルを導入した。具体的には、授業で習得したフレームワークや手法に基づくレポート形式の形成的評価 (2 回) と、授業内でのチームワークへの貢献度およびプレゼンテーションにおける解決策の提案を対象としたパフォーマンス評価 (2 回) を実施し、知識の習得だけでなく、学生の実践的な能力向上を多角的に測定・評価する体制を整備した。
- (2) 従来の課題であった最終成果に対する学生の誤認 (解決策の提案への固執) を解消するため、今学期より「アクションリサーチ」の手法を導入した。研究を循環的なプロセスとして捉え、調査した問題に対する省察 (リフレクション) と、次なるサイクルに向けた「新たな問い」の創出を最終成果とすることで、当事者の発見を重視する本科目の学習到達目標をより明確に反映させる形となった。
- (3) 上記(2)の変更に伴い、最終評価の形式を従来のプレゼンテーションから「研究ポスター発表」へと変更した。これにより、単なるスライドショーの投影にとどまらず、研究プロセス全体を一枚のポスターで視覚的かつ論理的に構成・提示する能力を養い、情報発信手法の多様化を図った。
- (4) メンターフォーラムのテーマを、従来のキャリア重視のものから「Unlocking Resilience: Lessons

Learned from Setbacks」に変更した。成功体験だけでなく挫折経験を共有することで、学生がメンターをより身近な存在として感じ、共感を持って対話できるよう配慮した。また、交流会形式を希望制からメンター全員と対話可能なラウンドロビン方式へ変更した結果、学生の途中退室が解消されただけでなく、終了間際まで極めて熱心かつ活発な議論が交わされる盛況な会となった。

5. 授業風景・ポスター



Nitobe College Honors Program: Graduate Curriculum presents

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY
Nitobe College

The 21st Mentor Forum

Unlocking Resilience Lessons Learned from Setbacks

Saturday, December 13, 2025 (13:30~15:30)

Details	
Date	Saturday, December 13
Time	13:30~15:30
Location	S1, S-Building (1F) Institute for the Advancement of Higher Education
Language	English

Mentors	
	KURODA Taruho CEO, BlackFields Consulting Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Hokkaido University
	SAGA Miku HITACHI, Ltd. Graduate School of Letters, Hokkaido University
	NAKAHARA Taku CEO, Metagen Therapeutics, Inc. Graduate School of Life Science, Hokkaido University
	WADA Yoshiaki Former Member, House of Representatives School of Commerce, Waseda University
	FUJII Kodai President, Sanmaruko Foods Co., Ltd. Advertisement, Academy of Art University

Registration

Open to the Public

Registration for Online Participation
No pre-registration required for on-site participation.
Deadline: Friday, December 12

SCAN

Contact

NitobeCollegeGraduates@high.hokudai.ac.jp

Nitobe College

150th Anniversary Project 150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

SAPPORO

Navigating Sapporo

Overcoming Barriers in Daily Life

Date & Time	Wednesday, January 14, 2026 (16:30~18:30)
Location	S5, S-Building (1F) Institute for the Advancement of Higher Education
Open to the Public - No Pre-registration Required -	
Contact: NitobeCollegeGraduates@high.hokudai.ac.jp	

Join us for the final class of **Global Advanced Course II**, presented in collaboration with Hokkaido University's 150th Anniversary Project. In this interactive English poster session, student researchers will showcase their Action Research findings on the barriers faced by Sapporo residents and visitors, ranging from winter mobility and dietary needs to cultural adaptation and mental well-being.

秋・冬ターム「新渡戸カレッジ特別演習：デモーラ（企業課題解決演習）」実施状況

1. 実施日時

期間 : 2025 年 10 月 11 日(土)～11 月 29 日(土) (3rd バッチ)
曜日(時限) : 集中
回数 : 全 5 回
場所 : 北海道大学フード&メディカルイノベーション国際拠点

2. 実施体制

科目責任者 : 金子純一 (大学院工学研究院)
新渡戸カレッジ担当: 谷博文 (大学院工学研究院)、Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)
授業担当教員 : 椎名希美 (産学・地域協働推進機構)

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本授業は、フィンランド発祥の DEMOLA の教育プログラムを活用して、アントレプレナーシップ/イントレプレナーシップの思考・行動アプローチを実践的に学び、体得することをめざすプログラムである。学生は、2 ヶ月間、フード&メディカル国際拠点で開催されるオープンイノベーション手法のワークを受けながら、学生と企業人で構成するチームの一員として、企業が抱えるビジネス上の課題の解決モデルを組み立てる。

(2) 授業目標

- DEMOLA プログラムへの参加を通して、ビジネスモデルの設計・具体化・検証のサイクルを学び、その加速化によって、イノベーションを起こすために求められる思考と行動の習慣を身につける。
- 実際の企業の課題を解決に導く、精度の高いビジネスアイデアを立案するアプローチを学ぶ。
- 企業の課題が根ざしている社会的な構造と、世界的規模で直面する未来のトレンドを理解し、よりインパクトの大きいビジネスモデルに磨きあげるメソッドを体得する。
- 知的財産権の価値に気づき、管理・運用するスキルを学ぶ。

4. 評価方法

授業への参加・貢献度（発表・ディスカッション等）：40%、課題提出（プラン最終版）：30%、最終プレゼンテーション：30%

5. 授業内容および実施状況

学生と企業人でチームを構成し、企業が抱えるビジネス上の課題解決の提案と、参加企業の前での最終プレゼンを行った。提案されたアイデアを課題提出企業が採用し、ライセンス契約をするケースもある。3rd バッチ参加企業と課題は以下のとおりである。

6. 受講者及び成績

受講者：なし

7. 参考資料

3rd バッチ参加企業と課題



三河淡水魚株式会社

秋・冬ターム「新渡戸カレッジ特別演習：ハルトプライズチャレンジ」実施状況

1. 実施日時

期間 : 2学期集中 (2025 年 11 月～2026 年 2 月)

2. 実施体制

科目責任者 : 谷博文 (大学院工学研究院)

授業担当教員 : Dale Lee Whitfield (高等教育推進機構)

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

ハルトプライズ (Hult Prize) は、SDGs などの社会的課題を解決するための起業アイデアを争う国際的な学生コンペティションであり、数名からなる学生チームが毎年提示される課題に挑戦している。例年、10月頃にクリントン元アメリカ大統領によって課題が提示され、キャンパスや地域での予選会とそれに関わる各種セミナーやワークショップ、プログラムへの参加を経て、翌年9月頃開催の世界大会で優勝チームが決定する。優勝チームには起業資金として1万ドルが与えられる。この演習授業では、ハルトプライズへの挑戦 (ハルトプライズへのエントリー；チームによるプロジェクト立案と発表、各種イベントへの参加) を通じて、新渡戸カレッジが育成するリーダー人材の中で、特に「チェンジリーダー」になるための実践的取り組みを学ぶ。また、SDGs、ソーシャルビジネス、起業家精神への理解を深めるとともに、社会にインパクトを与えるプロジェクト構想の立案方法を体得する。

(2) 授業目標

- ハルトプライズ北海道大学キャンパス大会に参加し、課題への取り組みと起業アイデアの立案、関連セミナーへの参加を通じて、現代社会の問題に対する高度な共通認識を持ち、その解決に向けたチームでの取り組み方法を習得する。
- 課題解決に求められる革新的なアイデアを創出し、それをビジネスとして具体的に立案する方法を身につける。
- 説得力のあるプレゼンテーションスキルを習得する。
- ソーシャルビジネスについて理解するとともに、起業家精神を身につける。

4. 評価方法

Hult Prize に関する講義やイベントへの積極的な参加及び最終レポートにより評価を行う。新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムにて開講する「新渡戸カレッジ特別演習」としての単位修得には以下の2つの条件を満たすことが必要である。

- (1) 自分の属するチームがハルトプライズ学内予選に出場すること
- (2) 最終レポートを提出すること

5. 授業内容

ハルトプライズ北海道大学は、学生からなる運営チームにより、下記の内容が実施される。

今年度のハルトプライズター、ハルトプライズ・チャレンジに関連するSDGsへの理解、ソーシャルアントレプレナー(起業家)とは、ビジネス構想演習、英語プレゼンテーション演習、ハルトプライズ学内選抜大会(全員参加)、チェンジリーダーについて、振り返りと次へのアクション

2025/2026 年の Hult Prize では、昨年・一昨年に続いて単独のテーマに絞らずに(ただし、SDGs の少なくとも一つに沿ったテーマ)「Unlimited」と題して開催されている。

(参考) Hult Prize Campus Program at Hokkaido University 2025/26

<https://brassy-gym-0f5.notion.site/154d21a491e24cf2b76ff8f4d67fac7d?v=989d6d2664c1407ebe35fa4dca8937d4>

6. 受講者及び成績

受講者：なし

令和7年度（2025）
プレプログラム科目（後期）実施状況

No.	科目名	単位数	頁
①	グローバル実践科目Ⅰ（チーム学習の基礎）	2	54
②	グローバル実践科目Ⅱ（チーム学習の実践）	2	56

秋ターム「グローバル実践科目Ⅰ」（チーム学習の基礎）実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : WHITFIELD Dale Lee (高等教育推進機構)

授業担当教員 : WHITFIELD Dale Lee (高等教育推進機構)

ティーチングアシスタント (TA) :

楊梓桐 (大学院環境科学院)、TOULIABAH Eman Hussein Elsayed (大学院工学院)

2. 履修者数 11 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、専門分野の異なる学生が協働でプロジェクトに取り組むことを通じて、協働への貢献に必要なとなる学生個々の能力を向上させるとともに、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける課題を実施する。これらの能力の修得・向上を目指す知識とスキルには、「3+1 の力」に加え、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキングなどの思考法、リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーション、プレゼンテーションなどが含まれる。

(2) 授業目標

- 新渡戸カレッジの教育理念と学修目標を理解する。
- コミュニケーションスキル、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーションなど個々の能力を向上させる。
- リーダーシップ、チームビルディング、ファシリテーションなど協働の成果創出に欠かせない能力を身につける。
- 異なる専門性を持つ学生との協働を通じて、自らの専門性を相対化することで、その重要性への理解を深めるとともに、他の専門性の価値を認識する。
- 現在、また将来において、専門家として求められる倫理観を養い、自らの考え、行動が持つ社会への影響と社会への貢献に対する意識を高める。

4. 実施状況

(1) 「3+1 の力」を構成する 27 の観点に基づく、新たなコンピテンシー評価モデルを導入した。具体的には、授業で習得したフレームワークや手法に基づくレポート形式の形成的評価（4 回）と、授業内でのチームワークへの貢献度およびプレゼンテーションにおける解決策の提案を対象としたパフォーマンス評価（2 回）を実施し、知識の習得だけでなく、学生の実践的な能力向上を多角的に測定・評価する体制を整備した。

(2) チーム学習の深化を目指し、「心理的安全性」と「ストラテジック・ドゥーイング (Strategic Doing)」の 2 つの枠組みを新たに導入した。リスクを恐れずに発言できる「心理的安全性」の構築はチーム内の葛藤低減に寄与した。一方、「ストラテジック・ドゥーイング」は、異なる専門分野を持つ学生が互いの資産を連結・活用して新たな価値を生み出す手法として、異分野協働における具体的な行動計画の策定と、実行可能なプロジェクト成果の創出に不可欠な役割を果たした。

(3) TA の教育指導能力の育成を目的として、第 5、7、8 週の授業において TA が講師役を務める機会を設けた。授業担当教員の観察下において、指定された学習単元（モジュール）の内容を教授しつつ、プロジェクトテーマの選定やクラス運営（マネジメント）に関しては TA の裁量に委ねた。授業終了後には

教員から詳細なフィードバックを行い、TA のファシリテーションおよび指導スキルの向上を図った。

5. 授業風景



冬ターム「グローバル実践科目 II」(チーム学習の実践) 実施状況

1. 担当教員

科目責任者 : WHITFIELD Dale Lee (高等教育推進機構)

授業担当教員 : 橋本勝文 (大学院工学研究院)

ティーチングアシスタント (TA) :

楊梓桐 (大学院環境科学院)、TOULIABAH Eman Hussein Elsayed (大学院工学院)

2. 履修者数 11 名

3. 授業目的・目標

(1) 授業目的

本科目では、専門分野の異なる学生が協働でプロジェクトに取り組む。「グローバル実践科目 I」で体得した知識やスキルを応用し、具体的な課題解決のプロジェクトに取り組むことによって、プロジェクトマネジメントの基礎的知識とスキルを身につける。

(2) 授業目標

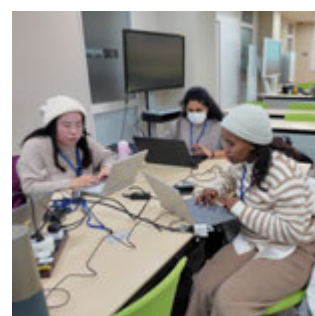
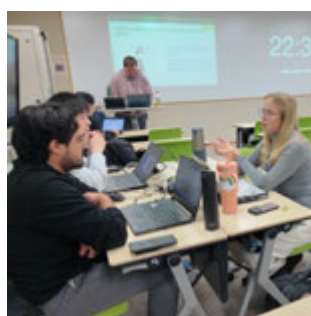
- プロジェクトマネジメントの重要性を理解する。
- プロジェクトマネジメントの基礎知識とスキルを体得し、現在大学院で実施している研究も含めて応用できる。
- チームプロジェクトの実行を通して、「グローバル実践科目 I」で体得・向上させた能力やスキルに関する応用力を高める。

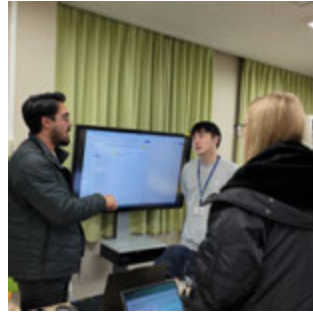
4. 実施状況

(1) プロジェクトスコープや WBS 等を用いる従来のウォーターフォール型管理手法に加え、カンバン方式やスプリント実行、変更要求への対応といったアジャイル型手法を用いた実習を行った。計画策定のみならず、実際のプロジェクト遂行・実装局面に焦点を当てることで、学生の実践的なプロジェクト実行能力を大幅に強化した。

(2) 「3+1 の力」を構成する 27 の観点に基づく、新たなコンピテンシー評価モデルを導入した。具体的には、授業で習得したフレームワークや手法に基づくレポート形式の形成的評価 (4 回) と、授業内でのチームワークへの貢献度およびプレゼンテーションにおける解決策の提案を対象としたパフォーマンス評価 (2 回) を実施し、知識の習得だけでなく、学生の実践的な能力向上を多角的に測定・評価する体制を整備した。

5. 授業風景







新渡戸カレッジ特別講演会

Toward the Revival of the Research Capability in Japan

講師: Kiyohiro Houkin, MD., Ph.D.

Principal of Nitobe College, Hokkaido University

寶金清博氏

北海道大学総長 新渡戸カレッジ校長



日時: 2025年6月30日(月)

18時30分～19時45分

**会場: フロンティア応用科学研究棟2F
レクチャーホール(鈴木 章ホール)**

【講師からのメッセージ】

As has often been pointed out, various data indicate a decline in Japan's presence in the world. This trend has been both rapid and long-term. Needless to say, in terms of overall scientific research capability, Japan has fallen out of the global top ten.

National strength is the sum of various factors, and the decline in research capability is a result of the overall decline in national strength. At the same time, it is also one of the primary causes of Japan's weakening position. The decline in scientific and technological research capability is undoubtedly due to multiple factors, but broadly speaking, it can be categorized into the following three key areas:

1. Decline in human resources, in other words, a decrease in the number of researchers and available research time.
2. Insufficient total research funding and errors in the distribution methods.
3. Structural issues in Japanese society, such as stagnation in industry-academia-government collaboration, internationalization, and open innovation.

In other words, Japan faces major deficiencies in people, funding, and systems.

In this lecture, I am delighted to discuss on the revitalization of the research potential in Japan.

【講師略歴】

1954年北海道生まれ。1979年北海道大学医学部卒業、医学博士、脳神経外科専門医。

アメリカ合衆国カリフォルニア大学デービス校客員研究員、文部省在外研究員(アメリカ合衆国スタンフォード大学・英国王立神経研究所)、札幌医科大学医学部教授、北海道大学大学院医学研究科教授、北海道大学病院長を経て、2020年10月より現職。臨床では、脳血行再建術、もやもや病の外科治療、研究では、骨髄幹細胞を用いた再生医療を専門とする。また、日本学術会議会員として、認知症に関する提言を行っている。

全学ニュース

令和6年度新渡戸カレッジ修了式(学部教育コース)を挙行

令和6年度新渡戸カレッジ修了式(学部教育コース)を3月25日(火)に高等教育推進機構にて挙行了。修了式には修了生17名のうち12名が出席し、寶金清博校長(総長)、山本文彦校長代理(理事・副学長)、弐 和順副校長、杉江和男副校長、ラ フェイ・ミシェル教頭及び新渡戸カレッジ関係教職員から祝福を受けました。

式では、修了生を代表して、工学部情報エレクトロニクス学科卒業の新田

敦之さんに寶金校長から修了証書が授与されました。次に寶金校長が挨拶し、所属学部と新渡戸カレッジ両方のカリキュラムを修了した学生たちの努力を労い、各自がこの経験をこれからの人生に生かし、グローバルリーダーとして活躍することを期待すると激励しました。修了生代表の挨拶では、経済学部経営学科卒業の近松真帆さんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負を述べました。さらに校友会

エルム会長でもある杉江副校長と新渡戸カレッジフェローの森 順子氏から激励の言葉が修了生に贈られました。この後、式は滞りなく進み、無事に終了しました。

終了後、出席者全員で記念写真を撮り、またお世話になった教職員と写真を撮る姿があちこちで見られ、皆名残惜しそうに会場を去って行きました。

(学務部教育推進課)



修了証書の授与



寶金校長の挨拶



修了生代表による挨拶



出席者による記念撮影

■全学ニュース

真弓明彦氏 北海道大学総長顧問に就任

5月1日付で、真弓明彦氏（北海道電力株式会社名誉顧問・北海道経済連合会名誉会長）を本学の総長顧問に委嘱しました。任期は令和8年3月31日までです。

真弓氏は、令和元年から令和5年の

北海道電力株式会社会長職在任中、北海道経済連合会長として、北海道の産業振興や地域経済の発展に尽力されました。また、本学においては経営協議会の学外委員として、本学の経営に関し多大な貢献をされました。

今後は総長顧問として、同氏の豊富な経験と知見を活かし、本学の運営に関し様々な助言をいただくことを予定しております。

（総務企画部総務課）



真弓氏（左）と實金清博総長（右）

第20回（令和7年度第1回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジの大学院カリキュラムでは、6月15日（日）に高等教育推進機構において、第20回メンターフォーラムを開催しました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流

を通じ、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催されています。

当日は、第1部として「Career opportunities for degree holders: academia, public or private sector?」のテーマで、4名のメンターによるパネルディスカッションがありました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンターに自由に質問し対話を行

う交流会として実施しました。新渡戸カレッジ生は大学における研究活動及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを得ることができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な洞察を得ることができたようです。

（学務部教育推進課）



メンターのオフス・チュム エリック氏による講演の様子



パネルディスカッションの様子

令和7年度新渡戸カレッジ入校式を開催

10月4日（土）に高等教育推進機構にて、新渡戸カレッジ入校式を開催し、学部カリキュラム137名、大学院カリキュラム26名の計163名が入校しました。

入校式では、寶金清博校長（北海道大学総長）及び真弓明彦副校長（校友会エルム会長）による挨拶の後、新渡戸カレッジ役員、フェロー・メンター

の紹介が行われ、フェローを代表して萩野 泉氏、メンターを代表して中島 徹氏が挨拶を行いました。学生からは、学部カリキュラム入校生を代表して文学部1年の山田和佳さん、大学院カリキュラム入校生を代表して工学院修士課程1年の後藤衣玖さんが挨拶を行い、式は終了しました。

式終了後、同会場にて令和6年度新

渡戸学（フェローゼミ）公開シンポジウム学生大賞を受賞した大友ゼミが成果発表を行いました。

本年度から、オンラインによる入校生の保護者の参加を可能とし、当日は14名の方が参加しました。

（学務部教育推進課）



寶金校長の挨拶



学部カリキュラム入校生代表 山田さんの挨拶



大学院カリキュラム入校生代表 後藤さんの挨拶



公開シンポジウム学生大賞 大友ゼミの成果発表

新渡戸カレッジフェローゼミ報告会を実施

12月6日（土）、高等教育推進機構において、「新渡戸カレッジフェローゼミ報告会」を開催しました。この報告会は、10月に入校した1年生が、新渡戸カレッジの独自科目である「新渡戸学（フェローゼミ）」での活動や議論を通して学び得た知識を深め、共有することを目的としています。

当日は、新渡戸カレッジ校長代理の山本文彦理事・副学長が挨拶を行い、フェローと支援教員、チューターのサポートを受けながら議論を重ねてきた集大成として、各ゼミの代表となった6グループが、持続可能な社会の実現

に向けた実践的な提案や具体的な報告を行いました。発表の合間には、新渡戸カレッジ生同士による活発な質疑応答も交わされ、有意義な交流の場となりました。

表彰式にあたり、真弓明彦副校長（校友会エルム会長）が総評を述べ、ラフエイ・ミシエル副校長からフェローゼミ学生大賞受賞グループが発表されました。学生大賞は、「非常時に備えた昆虫食の普及—昆虫食で地球が少し軽くなる—」をテーマに発表を行った萩野ゼミに授与されました。萩野ゼミは、令和8年度の新渡戸カレッジ入

校式において、入校生を前に再び発表をする予定です。

本年度からオンライン参加を可能としたフェローゼミ履修生の保護者14名を含むライブ配信の視聴者と会場にいる出席者に見守られ、無事に閉会しました。

最後に、フェローゼミをご指導いただいたフェロー並びに支援教員、そして本プログラムにご協力いただいた関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

（学務部教育推進課）



発表の様子



学生大賞を受賞した萩野ゼミ



参加者全員で記念撮影

第21回（令和7年度第2回）新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催

新渡戸カレッジ大学院カリキュラムでは、創基150周年記念事業の一環として、12月13日（土）に高等教育推進機構において第21回メンターフォーラムを開催しました。当日は、対面とオンラインの併用により実施し、大学院生のみならず学部生や教職員など、多くの方々が参加しました。

社会の多様な分野で活躍する方々がメンターに就任し、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを見

据え、身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じて、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、夏と冬の年2回開催されています。

第1部では、「Unlocking Resilience: Lessons Learned from Setbacks（逆境から学ぶ、立ち直る力）」をテーマに、5名のメンターが自身のキャリアや実社会で直面した困難、それをどのように乗り越えたかについて英語で講演しました。参加した学生たちは、体験に基づく貴重なアドバイスに強い刺激を受け、熱心に耳を傾け、質疑応答では積極的に質問を投げかけていました。

続く第2部では、学生が各メンター

に自由に質問し、対話を行う交流会が実施されました。研究活動や今後本格化する就職活動に関する具体的な質問が多く寄せられ、学生たちは直接的な助言を得ることができました。

本フォーラムを通じて、新渡戸カレッジ生は大学院生活においてどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインへとつなげていくべきかについて、貴重な示唆を得る機会となりました。

（学務部教育推進課）



メンターによる講演の様子



集合写真

令和7年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）を挙

令和7年度新渡戸カレッジ修了式（学部教育コース）が、3月25日（水）に高等教育推進機構にて挙行されました。修了生44名のうち29名が出席し、寶金清博校長（総長）、山本文彦校長代理（理事・副学長）、ラフェイ・ミシエル副校長、真弓明彦副校長（校友会エルム会長）をはじめ、新渡戸カレッジ関係教職員や修了生の保護者から祝福を受けました。

式では、修了生を代表して農学部畜産科学科卒業の西川優嗣さんに、寶金

校長から修了証書が授与されました。続いて寶金校長が挨拶を行い、新渡戸カレッジのカリキュラムを修了した学生たちの努力を労うとともに、これからの人生で学びを生かし、グローバルリーダーとして活躍することへの期待を述べました。修了生代表挨拶では、経済学部経営学科卒業の逸見京花さんが、新渡戸カレッジでの学びを振り返り、今後の抱負を語りました。また、校友会エルム会長の真弓副校長が挨拶を行い、新渡戸カレッジフェローの石

川めぐみ氏からも修了生に向けた激励の言葉が贈られました。

オーナーズプログラム学部教育コースの修了生には、「Summa cum Laude」（with highest honor）、「Magna cum Laude」（with great honor）、「Cum Laude」（with honor）、「Associate」の称号がそれぞれ授与されます。

（学務部教育推進課）



修了証書の授与



寶金校長挨拶



修了生代表挨拶



記念撮影

新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を挙

令和7年度新渡戸カレッジ修了式（大学院カリキュラム）を3月18日（水）に高等教育推進機構にて行い、留学生9名を含む、26名が修了しました。

はじめに、ラフェイ・ミシェル副校長から修了生代表に修了証書が授与されました。ラフェイ副校長の挨拶に続いて、修了生を代表して、ワング・マ

イア・リサンドラ・マヌエルさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについてスピーチを行い、修了式は終了となりました。

オナーズプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

（優秀賞受賞者）
解 文凱（理学院）
佐藤野乃佳（農学院）

（学務部教育推進課）



修了生代表による挨拶



集合写真

(4) 行事等広報（新渡戸カレッジHP (NEWS)）

2025年度新渡戸カレッジオーナーズプログラム大学院カリキュラム春入学式を開催

投稿日: 2025-04-22

履修生向け（大学院）

2025年4月19日（土）高等教育推進機構にて入学式が開催され、14名が新渡戸カレッジに入校しました。

入学式には、資金 清博 新渡戸カレッジ校長（北海道大学総長）をはじめ、山本 文彦校長代理、ラ フェイ ミシェル副校長、谷 博文教頭、伊藤 秀臣 教育支援責任者、新渡戸カレッジ教員が出席しました。

始めに資金校長からご挨拶をいただき、その後、関係教員・メンターの紹介、続いて、新渡戸カレッジメンターを代表して石川 憲一メンターの挨拶がありました。

その後、プログラムを代表して芦田 紗菜さんがオーナーズプログラムへの意気込みを語りました。



2025年度春グローバル実践科目Ⅰの最終プレゼンテーション

投稿日: 2025-06-13

入校希望者向け（大学院） 履修生向け（大学院） 学生・一般向け

6月10日（火）と6月12日（木）に、大学院プレプログラム科目である「グローバル実践科目Ⅰ」の最終プレゼンテーションが行われました。学生チームは、「より良い北海道大学の構築」をテーマに、各メンバーの専門知識やスキルを活かした学際的な解決策を考案することが求められました。

学生には、「グローバル実践科目Ⅰ」の授業を通して培ったスキルを応用し、以下のいずれかのテーマについて8分間のプレゼンテーションを行うことが課されました。

- 多様な身体的・感覚的ニーズを持つ学生や教職員にとって、北海道大学のキャンパスをよりアクセスしやすく、インクルーシブ（包摂的）なものにするにはどうすればよいか。
- 北海道大学は、全学生のメンタルヘルスとウェルビーイングを、どのようにすればより良く支援できるか。
- より多くの札幌市民や北大生が、アイヌの文化と歴史に関心を持ち探求ようになるために、どのような革新的な取り組みが考えられるか。
- 北海道大学が持つ研究成果や知見を、札幌の地域社会により効果的に還元するには、どのような方法があるか。
- すべての構成員に、より健康的で持続可能（サステナブル）かつ文化的に多様な食の選択肢を提供するために、北海道大学は学内の食環境をどうすれば向上させられるか。

第20回(2025年度第1回)新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催しました

投稿日: 2025-06-28

[入校希望者向け](#) [入校希望者向け\(学部\)](#) [入校希望者向け\(大学院\)](#) [履修生向け\(学部\)](#)
[履修生向け\(大学院\)](#) [学生・一般向け](#) [教員向け](#)

2025年6月15日(日)、北海道大学高等教育推進機構にて、第20回(2025年度第1回)新渡戸カレッジメンターフォーラムが開催されました。

2025年度第2回新渡戸カレッジ(学部)入校説明会の開催について

投稿日: 2025-07-01

[入校希望者向け\(学部\)](#)

学部1年生 各位

第2回新渡戸カレッジ入校説明会(学部1年生対象)を以下の通り開催します。
入校希望者は必ず参加をしてください。

なお、グローバル基礎科目(国際理解と海外留学〔春ターム〕及びリーダーシップとチームワーク〔夏ターム〕)を履修している方が対象です。

日 時 2025年7月28日(月)
18:15~19:30

場 所 高等教育推進機構
Sky HALL (大講堂)

内 容 ①「学部カリキュラム」の概要について
②「フェローゼミ」について
③「海外留学」について
④「プログラム履修」について

2025年度夏グローバル実践科目IIの最終プレゼンテーション

投稿日: 2025-08-08

[入校希望者向け（大学院）](#) [履修生向け（大学院）](#) [学生・一般向け](#)

8月5日（火）と8月7日（木）に、大学院プレプログラム科目である「グローバル実践科目II」の最終プレゼンテーションが行われました。学生は「グローバル実践科目II」で培ったプロジェクトマネジメントスキルを活用し、現実社会における2つの主要な課題に対し、革新的かつ詳細な解決策を提案しました。

火曜日のクラスは、「オープン北海道：世界の旅行者のためのアクセス改善」をテーマに、観光における地域的・季節的な偏りといった問題に取り組む計画を発表しました。

木曜日のクラスは、現代のデジタル社会における深刻な課題である「ソーシャルメディアにおける誤情報・偽情報への対策」に関するプロジェクトを発表しました。

新渡戸カレッジ大学院カリキュラムの修了式を挙行しました

投稿日: 2025-09-17

[履修生向け（大学院）](#)

令和7年度新渡戸カレッジ修了式を9月17日（水）に高等教育推進機構にて行い、留学生9名を含む、15名が修了しました。

はじめに、ラ フェイ ミシェル副校長から修了生代表のチャン ウエン ティ ツさんに修了証書が授与されました。副校長の挨拶に続いて、修了生代表のカサルス クリスティーン マリー アバヤさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについて挨拶を行い、修了式は終了となりました。

オナーズプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

■ 優秀賞受賞者

カサルス クリスティーン マリー アバヤ（工学院）

チャン ウエン ティ ツ（経済学院）

令和7年度新渡戸カレッジ入校式を開催

投稿日: 2025-10-29

[入校希望者向け](#) [履修生向け（学部）](#) [履修生向け（大学院）](#)

10月4日（土）高等教育推進機構SkyHALLにて、新渡戸カレッジ入校式を開催し、学部カリキュラム137名、大学院カリキュラム26名の計163名が入校しました。

入校式では、實金清博校長（北海道大学総長）及び真弓明彦校友会エール会長（新渡戸カレッジ副校長）による挨拶の後、新渡戸カレッジ役員、フェロー・メンターの紹介が行われ、フェローを代表して萩野 泉さん、メンターを代表して中島 徹さんが挨拶を行いました。学生からは、学部カリキュラム入校生を代表して文学部1年山田和佳さん、大学院カリキュラム入校生を代表して工学院修士課程1年後藤衣玖さんが挨拶を行い、式は終了しました。

式終了後、同会場にて令和6年度新渡戸学（フェローゼミ）公開シンポジウム学生大賞を受賞した大友ゼミが成果発表を行いました。

本年度から、オンラインによる入校生の保護者の参加を可能とし、当日は14名の方が参加しました。

2025年度秋グローバル発展科目Iの最終プレゼンテーション

投稿日: 2025-11-19

[入校希望者向け（大学院）](#) [履修生向け（大学院）](#) [学生・一般向け](#)

先般、グローバル発展科目Iの最終発表会が開催されました。学生たちは、本カリキュラムを通じて培った高度なプロジェクトマネジメント能力と問題解決スキルを駆使し、重大な世界的健康課題である「肥満問題」に対する包括的な解決策の考案に取り組みました。

各チームは、ゲーミフィケーションを取り入れたフィットネスアプリから、食料供給のロジスティクス改革に至るまで、ユーザー視点に立った革新的な戦略を発表しました。学生たちが開発した解決策の概要は以下の通りです。

- ・ **チーム1 (MeowMed):** 健康管理に対するモチベーション不足という課題に着目し、バーチャル猫の健康状態がユーザーの身体活動や目標達成度と連動するゲーミフィケーションアプリ「MeowMed」を提案しました。Apple Watchやジム会員権といった競合サービスよりも安価で、かつ情緒的な報酬を提供することで、経済的に余裕のない層やモチベーション維持に悩む人々が、より健康管理に取り組みやすくなることを目指しています。
- ・ **チーム2 (NutriFriends):** 若い親や小さな子供たちが抱える「健康的な食習慣へのハードル」に焦点を当て、「キッズモード」と「保護者モード」を備えたインタラクティブなアプリを開発しました。愛らしいキャラクターで子供たちの興味を引きつけ、子供が描いた絵をもとに栄養バランスの取れたレシピを生成する機能を搭載するなど、幼少期から食への関心を育む工夫が凝らされています。
- ・ **チーム3 (Golden Duck):** 運動に伴いがちな「孤独感」を解消するため、謎解きと身体的な課題を組み合わせたソーシャルな「脱出ゲーム」である「Golden Duck」を提案しました。屋外での楽しくインタラクティブなチーム体験を提供することで、一人では運動する意欲が湧かない層をターゲットにしています。
- ・ **チーム4 (Farm2Fork):** 健康的な食材を買いに行く時間や資金がない多忙な低所得者層と、地元の農家を直接つなぐ直販マーケットプレイスを設計しました。AIを活用したカスタマイズ可能な食事プランナー機能により、信頼性と低価格を確保しつつ、「利益よりも顧客の健康を優先する」というセーフガード原則を掲げています。
- ・ **チーム5 (NutriBox):** 大学生の食生活の乱れや、いわゆる「フレッシュマン15（大学入学後の体重増加）」の問題に取り組みました。「Nutri Box」は、地元の農家から規格外の食材などを活用し、キャンパス内に設置した自動販売機で手頃な価格のミールキットを提供する提案です。ファストフードやコンビニ食に代わる、低価格かつ健康的で環境にも優しい選択肢を目指しています。

【外部講師への謝辞】

また、本コースの外部講師として登壇いただいた新渡戸カレッジ修了生の川手紅梨子氏に心より感謝申し上げます。川手氏からは、「Hult Prize」での活動やご自身が設立された「Beeber Global」での起業経験など、学生起業家としての貴重な体験談をお話いただきました。そのストーリーは、イノベーションとリーダーシップについて、学生たちに実践的かつ強力な視点を与えるものでした。



川手 紅梨子 氏（新渡戸カレッジ修了生／Beeber Global 共同創業者兼CEO）

新渡戸カレッジフェローゼミ報告会を開催しました

投稿日: 2025-12-23

履修生向け（学部） 学生・一般向け 教員向け

12月6日（土）、高等教育推進機構において、「新渡戸カレッジフェローゼミ報告会」を開催しました。この報告会は、10月に入学した1年生が、新渡戸カレッジの独自科目である「新渡戸学（フェローゼミ）」での活動や議論を通して学び得た知識を深め、共有することを目的としています。

当日は、新渡戸カレッジ校長代理の山本文彦理事・副学長が挨拶を行い、フェローと支援教員、チューターをサポートを受けながら議論を重ねてきた集大成として、各ゼミの代表となった6グループが、持続可能な社会の実現に向けた実践的な提案や具体的な報告を行いました。発表の合間には、新渡戸カレッジ生同士による活発な質疑応答も交わされ、有意義な交流の場となりました。

表彰式にあたり、真弓明彦副校長（校友会エルム会長）が総評を述べ、ラフェイ・ミシェル副校長からフェローゼミ学生大賞受賞グループが発表されました。学生大賞は、「非常時に備えた昆虫食の普及ー昆虫食で地球が少し軽くなるー」をテーマに発表を行った萩野ゼミに授与されました。萩野ゼミは、令和8年度の新渡戸カレッジ入学式において、入校生を前に再び発表をする予定です。

本年度からオンライン参加を可能としたフェローゼミ履修生の保護者14名を含むライブ配信の視聴者と会場にいる出席者に見守られ、無事に閉会しました。

最後に、フェローゼミをご指導いただいたフェローならびに支援教員、そして本プログラムにご協力いただいた関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

第21回新渡戸カレッジメンターフォーラムを開催しました

投稿日: 2025-12-23

入校希望者向け 入校希望者向け（学部） 入校希望者向け（大学院） 学生・一般向け

2025年12月13日（土）、高等教育推進機構において「第21回新渡戸カレッジメンターフォーラム」が開催されました。今回のフォーラムは、1876年の開校から2026年で150周年を迎える北海道大学の「北海道大学創基150周年記念事業」の一環として行われ、非常に意義深いものとなりました。

新渡戸カレッジオーナーズプログラムの大学院カリキュラムでは、さまざまな分野の第一線で活躍している方々を「メンター」として委嘱しています。メンターは、学生が将来のキャリアパスを模索し、グローバルな視野を広げ、様々なネットワークを構築することを支援する重要な役割を担っています。

親しみやすいロールモデルであるメンターとの交流を通じて、学生は大学院修了後の人生設計について深く、客観的に考える機会を得ることができます。年2回開催されるこのフォーラムは、大学における学術研究と実社会の多様な現実をつなぐ、不可欠な架け橋となっています。

■ メンターレクチャー：「Unlocking Resilience」

今回のフォーラムは「Unlocking Resilience: Lessons Learned from Setbacks」をメインテーマに掲げて開催されました。5名のメンターが、成功に至るまでの道のりで直面した数々の困難や、失敗という経験から得たかけがえのない教訓について、自身の歩んできたストーリーを交えて語りました。

Final Presentations of Global Practical Course II, Winter 2025

投稿日: 2026-01-30

入校希望者向け（大学院） 履修生向け（大学院） 学生・一般向け

Students in the **Global Practical Course II** recently delivered their final presentations, showcasing the sophisticated project management and problem-solving skills they honed throughout the semester. This cohort dedicated their efforts to designing innovative, sustainable solutions for a pressing local and global issue: **the Urban Brown Bear Problem in Hokkaido**.

By applying frameworks like stakeholder management, risk assessment, and resource allocation, teams developed comprehensive strategies to balance human safety with ecological preservation. Below is an overview of the solutions developed by the students:

Team 1: To Make Hunting More Profitable

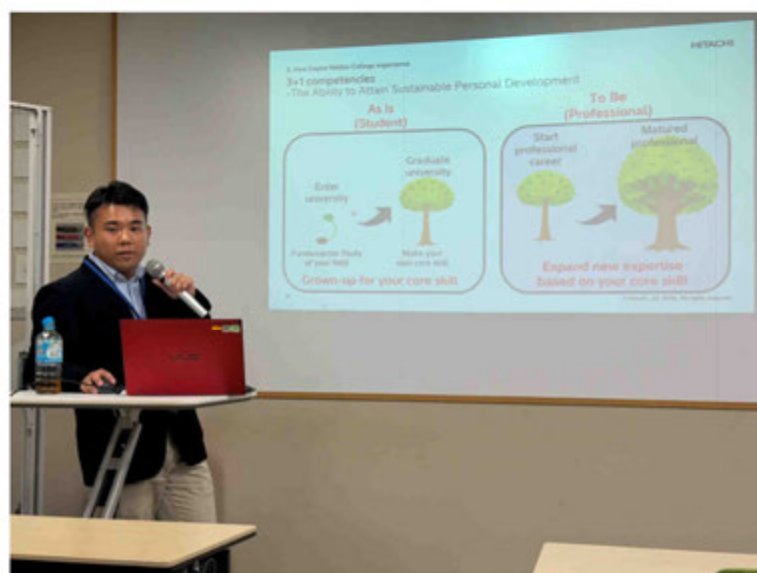
Mission: Sustainably monitor bear populations while increasing the economic welfare and salary of hunters. This team focused on the "Economic Transformation" of bear management. Their solution involves transforming bear-related products into maximum value items and establishing a **binding partnership with the Ainu community** for revenue-sharing and premium fair-trade crafts. By using science-based quotas, they aim to enable a sustainable income for hunters while maintaining ecological stability.

Team 2: AI Brown Bear Sensor System & Coexistence Strategy

Mission: Reduce bear sightings in urban Sapporo and maintain public safety while securing bear lives. Team 2 proposed a high-tech "AI-Driven Safety System". Their scope includes a multi-layered approach: creating a **reforestation map** to restore natural habitats, deploying a **sensor node network**, and developing **AI software** to predict bear trajectories and send real-time alerts to residents. They also designed a "Controlled Feeding Station Protocol" using dummies to keep bears away from urban centers.

Special Thanks to Our Guest Lecturer

We would like to extend a heartfelt thank you to Nitobe College alumnus, **Hiroaki Koide**, a researcher from the R&D group at **Hitachi, Ltd.** Koide shared his inspiring journey of bridging academic research with industrial application. He spoke candidly about his current challenge of **pursuing a Ph.D. at Hokkaido University while continuing his professional career** at Hitachi. His valuable advice regarding career development, balancing higher education with corporate R&D, provided our students with a powerful real-world perspective on lifelong learning and professional resilience.



Hiroaki Koide (Nitobe College alum; Hitachi, Ltd.)

「新渡戸カレッジ奨励賞」を授与しました

投稿日: 2026-02-05

履修生向け（学部） 学生・一般向け

新渡戸カレッジでは、新渡戸カレッジが主催・協賛する行事への主体的・積極的な参画と、当プログラム独自科目「新渡戸学」において学生相互の学びを豊かにする役割を担うことで、「新渡戸カレッジ」の発展に寄与した学業成績優秀なカレッジ生に敬意を表し、新渡戸カレッジ奨励賞を授与しています。

令和7年度は、新渡戸カレッジ生6名に授与しました。

受賞者（五十音順）

- ・ 阿部 真子さん（文学部）
- ・ 宇田川 はんなさん（農学部）
- ・ 小谷野 日向さん（文学部）
- ・ 三浦 侑姫さん（総合教育部）
- ・ 三上 敦弘さん（理学部）
- ・ 吉田 樹さん（水産学部）

2026年2月5日（木）に行われた授賞式では、ラフェイ・ミシェル副校長から式に出席した三上さんへ、表彰状と副賞として校友会エルムからの記念品が渡されました。

「新渡戸カレッジHP News」のページのQRコード



新渡戸カレッジ大学院カリキュラムの修了式を挙 行しました

投稿日: 2026-03-19

履修生向け（大学院）

令和7年度新渡戸カレッジ修了式を3月18日（水）に高等教育推進機構にて行い、留学生9名を含む、26名が修了しました。

はじめに、ラフェイ ミシェル副校長から修了生代表に修了証書が授与されました。副校長の挨拶に続いて、修了生を代表して、ワング マイア リサンドラ マヌエルさんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについてスピーチを行い、修了式は終了となりました。

オナースプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた学生に対し、優秀賞が授与されます。

■ 優秀賞受賞者

解 文凱（理学院）

佐藤 野乃佳（農学院）



修了生代表による挨拶



集合写真

令和7年度新渡戸カレッジ修了式(学部教育コース)を挙行了しました

投稿日: 2025-04-01

[入校希望者向け\(学部\)](#) [履修生向け\(学部\)](#) [学生・一般向け](#)

令和7年度新渡戸カレッジ修了式(学部教育コース)が、3月25日(水)に高等教育推進機構にて挙行されました。修了式には修了生44名のうち29名が出席し、寛金清博校長(総長)、山本文彦校長代理(理事・副学長)、ミシェル・ラフェイ副校長、真弓明彦副校長(校友会エール会長)をはじめ、新渡戸カレッジ関係教職員や修了生の保護者から祝福を受けました。

式では、修了生を代表して農学部畜産科学科卒業の西川優嗣さんに、寛金校長から修了証書が授与されました。続いて寛金校長が挨拶を行い、新渡戸カレッジのカリキュラムを修了した学生たちの努力を労うとともに、これからの人生で学びを生かし、グローバルリーダーとして活躍することへの期待を述べました。修了生代表挨拶では、経済学部経営学科卒業の逸見京花さんが、新渡戸カレッジでの学びを振り返り、今後の抱負を語りました。また、真弓副校長(校友会エール会長)が挨拶を行い、新渡戸カレッジフェローの石川めぐみフェローからも修了生に向けた激励の言葉が贈られました。

オナースプログラム学部教育コースの修了生には、「Summa cum Laude」(with highest honor)、「Magna cum Laude」(with great honor)、「Cum Laude」(with honor)、「Associate」の称号がそれぞれ授与されます。



修了証書の授与



校長挨拶



修了生代表挨拶



記念撮影

8 新渡戸カレッジ 入校者・修了者・在籍者の数

(1) オナーズプログラム 学部カリキュラム入校者数、学部教育コース修了者数

① 学部カリキュラム入校者数（令和7年10月）

令和7年度		申請者数	入校者数
		154	137
内 訳	総合文系	8	8
	総合理系	45	42
	文学部	16	14
	教育学部	2	2
	法学部	5	3
	経済学部	19	14
	理学部	10	10
	医学部医学科	1	1
	医学部保健学科	2	2
	歯学部	2	1
	薬学部	0	0
	工学部	15	14
	農学部	14	14
	獣医学部	2	2
	水産学部	13	10
	現代日本学プログラム	0	0



入校式（合同）

② 学部教育コース修了者数

< 令和 7 年 9 月 >

令和 7 年 9 月 修了		最終学年 在籍者	修了者		称号授与者数	
		85	2			
内 訳	文学部	12	—		Summa cum Laude (通算 GPA 上位 15%以内 TOEFL-iBT100 点相当以上)	1
	教育学部	3	—		Magna cum Laude (通算 GPA 上位 30%以内 TOEFL-iBT90 点相当以上)	1
	法学部	9	2		Cum Laude (通算 GPA 上位 50%以内 TOEFL-iBT80 点相当以上)	
	経済学部	10	—		Associate (上記以外)	
	理学部	10	—			
	医学部医学科	1	—			
	医学部保健学科	2	—			
	歯学部	1	—			
	薬学部	0	—			
	工学部	22	—			
	農学部	8	—			
	獣医学部	1	—			
	水産学部	6	—			

< 令和 8 年 3 月 >

令和 8 年 3 月 修了		最終学年 在籍者	修了者		称号授与者数	
		83	44			
内 訳	文学部	12	4		Summa cum Laude (通算 GPA 上位 15%以内 TOEFL-iBT100 点相当以上)	6
	教育学部	3	3		Magna cum Laude (通算 GPA 上位 30%以内 TOEFL-iBT90 点相当以上)	14
	法学部	7	4		Cum Laude (通算 GPA 上位 50%以内 TOEFL-iBT80 点相当以上)	9
	経済学部	10	3		Associate (上記以外)	15
	理学部	10	5			
	医学部医学科	1	0			
	医学部保健学科	2	0			
	歯学部	1	1			
	薬学部	0	0			
	工学部	22	13			
	農学部	8	5			
	獣医学部	1	1			
	水産学部	6	5			

(2) オナーズプログラム大学院カリキュラム（入校者数、修了者数）

① 入校者数（令和7年4月）及び修了者数（令和7年9月）

令和7年度		4月入校者数	履修継続者数	9月修了者数	履修継続者数	未修了者数
		14	2	15	1	0
内 訳	文学院	0	0	0	0	0
	法学研究科	0	0	0	0	0
	経済学院	1	0	1	0	0
	教育学院	0	0	0	0	0
	国際広報メディア・観光学院	1	0	1	0	0
	公共政策学教育部	0	0	0	0	0
	医学院	0	0	0	0	0
	保健科学院	2	1	3	0	0
	情報科学院	0	0	0	0	0
	工学院	3	1	4	0	0
	総合化学院	0	0	0	0	0
	医理工学院	0	0	0	0	0
	農学院	2	0	2	0	0
	水産科学院	0	0	0	0	0
	環境科学院	2	0	1	1	0
	国際食資源学院	0	0	0	0	0
	理学院	2	0	2	0	0
	生命科学院	1	0	1	0	0

② 入校者数（令和7年10月）及び修了者数（令和8年3月）

令和7年度		10月入校者数	履修継続者数	3月修了者数	履修継続者数	未修了者数
		25	1	26	0	0
内 訳	文学院	0	0	0	0	0
	法学研究科	1	0	1	0	0
	経済学院	2	0	2	0	0
	教育学院	0	0	0	0	0
	国際広報メディア・観光学院	3	0	3	0	0
	公共政策学教育部	0	0	0	0	0
	医学院	0	0	0	0	0
	保健科学院	1	0	1	0	0
	情報科学院	0	0	0	0	0
	工学院	4	0	4	0	0
	総合化学院	4	0	4	0	0
	医理工学院	0	0	0	0	0
	農学院	2	0	2	0	0
	水産科学院	0	0	0	0	0
	環境科学院	3	1	4	0	0
	国際食資源学院	0	0	0	0	0
	理学院	2	0	2	0	0
	生命科学院	3	0	3	0	0

(3) 在籍者数

①－1 学部教育コース在籍者数

令和7年4月現在

令和7年度	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計
総合文系	0	—	—	—	—	—	0
総合理系	0	—	—	—	—	—	0
文学部	0	21	8	12	—	—	41
教育学部	0	8	0	3	—	—	11
法学部	0	20	5	9	—	—	34
経済学部	0	14	13	10	—	—	37
理学部	0	14	16	10	—	—	40
医学部医学科	0	3	4	2	2	1	12
医学部保健学科	0	6	1	2	—	—	9
歯学部	0	1	0	0	1	1	3
薬学部	0	2	2	0			4
工学部	0	37	25	22	—	—	84
農学部	0	21	22	8	—	—	51
獣医学部	0	3	2	5	2	1	13
水産学部	0	7	6	6	—	—	19
現代日本学 プログラム課程	—	0	0	0	—	—	0
合 計	0	157	104	89	5	3	358

注) 1年次学生は、10月入校のためR7.4現在在籍なし。

①－2 学部カリキュラム、学部教育コース籍者数

令和7年10月現在

令和7年度	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計
総合文系	8	—	—	—	—	—	8
総合理系	42	—	—	—	—	—	42
文学部	14	21	8	12	—	—	55
教育学部	2	8	0	3	—	—	13
法学部	3	20	5	7	—	—	37
経済学部	14	14	13	10	—	—	51
理学部	10	14	16	10	—	—	50
医学部医学科	1	3	4	2	2	1	13
医学部保健学科	2	6	1	2	—	—	11
歯学部	1	1	0	0	1	1	4
薬学部	0	2	2	0			4
工学部	14	37	25	22	—	—	98
農学部	14	21	22	8	—	—	65
獣医学部	2	3	2	5	2	1	15
水産学部	10	7	6	6	—	—	29
現代日本学 プログラム課程	0	0	0	0	—	—	0
合 計	137	157	104	87	5	3	493

②大学院教育コース在籍者数

令和7年度	令和7年4月現在 (令和7年4月入校)	令和7年10月現在 (令和7年10月入校)
文学院	0	0
法学研究科	0	1
経済学院	1	2
教育学院	0	0
国際広報メディア・ 観光学院	1	3
公共政策学教育部	0	0
医学院	0	0
保健科学院	3	1
情報科学院	0	0
工学院	4	4
総合化学院	0	4
医理工学院	0	0
農学院	2	3
水産科学院	0	0
環境科学院	2	4
国際食資源学院	0	0
理学院	2	2
生命科学院	1	3
合計	16	27

令和7年3月25日新渡戸カレッジ修了式（学部）



校長祝辞



校友会エルム会長祝辞



代表フェロー 激励のことば

9 主な就職先、修了者進路（2024 年度）

学部教育コース修了生		大学院教育コース修了生	
就職（一般企業）	2 名	本学大学院在学中	27 名
進学（本学大学院）	12 名	就職（一般企業）	7 名
臨床研修医	2 名	進学（本学大学院博士後期課程）	5 名
未定	1 名	進学（本学以外の大学院）（国外）	1 名
		未定	1 名
合 計	17 名	合 計	41 名

※ 令和6年度から大学全体の進路情報をもとに作成している（毎年8月頃集計）ため、報告が年度遅れとなる。



2024(令和6)年4月9日 新渡戸カレッジ大学院カリキュラム秋入校説明会



2025(令和7)年3月19日 新渡戸カレッジ修了式（大学院）

10 奨学金支給状況

令和7年度 北海道大学フロンティア基金各種奨学金の給付状況一覧

1. 新渡戸カレッジ（海外留学）奨学金

(1) オナーズプログラム学部カリキュラム

留学区分	給付人数(人)	給付額(円)
国際インターンシップ	11	1,226,000
学部レベル短期留学	6	514,000
交換留学	37	15,340,500
計	54	17,080,500

～ 参考 ～ 令和6年度合計	49	12,491,500
----------------	----	------------

(2) オナーズプログラム大学院カリキュラム

留学区分	給付人数(人)	給付額(円)
国際インターンシップ	1	64,000
大学院レベル短期留学	0	0
交換留学	1	924,000
計	2	988,000

～ 参考 ～ 令和6年度合計	4	504,000
----------------	---	---------

2. 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム奨学金

(1) 給付人数及び給付額

学期	給付人数(人)	1名あたりの給付額(円)	給付額合計(円)
第1学期	12	200,000	2,400,000
第2学期	18	200,000	3,600,000
計	30		6,000,000

～ 参考 ～ 令和6年度合計	30		6,000,000
----------------	----	--	-----------

(2) 受給者の所属大学院

学期	所属大学院、人数
第1学期	国際広報メディア・観光学院1名 保健科学院2名 工学院3名 農学院1名 環境科学院2名 理学院2名 生命科学院1名
第2学期	経済学院2名 法学研究科1名 国際広報メディア・観光学院2名 保健科学院1名 工学院2名 総合化学院2名 農学院2名 環境科学院1名 理学院2名 生命科学院3名

11 留学の状況

2025 年度 新渡戸カレッジ海外留学について

新渡戸カレッジにおける海外留学の目的

北海道大学の「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」および「実学の重視」という4つの基本理念と新渡戸稲造の精神に基づき、海外において高い倫理観と豊かな人間性をもった自律的な個人の確立と、論理的な思考力と高い専門能力を身につけることを海外留学の目的とする。

海外留学のポリシー

海外留学は、学生が自律的に学び、研究する上での手段である。学生個々人が国際的な視野の中で、何を学び、何を研究するかを熟考し、海外留学の目標と計画を設定した上で渡航することを求める。

新渡戸カレッジの海外留学制度

新渡戸カレッジオナーズプログラムの修了には、海外留学の単位取得は必須となる。2024年度よりカリキュラム改革が行われ、海外留学の単位取得の対象はさらに拡大した。現在、新渡戸カレッジにおける「海外留学」の単位取得の対象は、本学が開講する交換留学プログラム（2単位）と短期留学プログラム（1単位）の2つのプログラムが中心になるが、それ以外に新渡戸カレッジが指定するオンライン共修科目（2単位）と新渡戸カレッジが単位認定を行う学外で募集・実施される海外留学・研修（1単位）がある。

新渡戸カレッジオナーズプログラムに在籍する学生は、交換留学プログラム（2単位）と短期留学プログラム（1単位）に参加する場合、奨学金が支給される。新渡戸カレッジが指定するオンライン共修科目（2単位）と新渡戸カレッジが単位認定を行う学外で募集・実施される海外留学・研修（1単位）は奨学金支給の対象とならない。

【2025 年度海外留学の参加状況】

プログラム	渡航先	人数
交換留学	エディンバラ大学（英国）、アムステルダム自由大学（オランダ）、ベルゲン大学（ノルウェー）、ウメオ大学（スウェーデン）、ヘルシンキ大学（フィンランド）、ゲント大学（ベルギー）、ミュンヘン工科大学（ドイツ）、ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン（ドイツ）、ケルン大学（ドイツ）、ブレーメン大学（ドイツ）、リエイダ大学（スペイン）、ブダペスト工科経済大学（ハンガリー） ワシントン大学（米国）、オレゴン大学（米国）、オクラホマ大学（米国）、ハワイ大学マノア校（米国）、アルバータ大学（カナダ）、ブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）	30 名

	浙江大学（中国）、カセサート大学（タイ）、ガジャマダ大学（インドネシア）、マレーシア科学大学（マレーシア）		
短期留学	国際インターンシップ	シンガポール、マレーシア、ベトナム、タイ、インド、台湾、中国、フィンランド、ドイツ（企業名省略）	29 名（学部 26、大学院 3）
	学部専門レベル短期留学	シドニー大学（オーストラリア）、リンカーン大学（ニュージーランド）、エジンバラ大学（英国）、ウォリック大学（英国）、カセサート大学（タイ）、チュラロンコン大学（タイ）、東南アジア漁業開発センター（タイ）、シンガポール国立大学（シンガポール）、インド（大学未定）、ザンビア大学（ザンビア）	14 名
	学外実施の単位認定プログラム	大連理工大学中日同窓友情サマースクール（中国） フィンテック・モビリティ事業を通して雇用を生み出すインターン（インドネシア） 日英学生会議（英国） 青年環境 NGO Climate Youth Japan・COP 派遣事業（ブラジル） フロムジャパン第25回英国インターン（英国）	5 名
オンライン共修	J-MCP 2025 サマープログラム	Mental Health & Well-being	5 名

教員対象研修 (FD)：プロジェクトマネジメント実施状況

1. 実施目的

平成29年度から毎年、新渡戸カレッジの授業担当教員やTAに対し、大学院カリキュラムの教育研究に役立つプロジェクトマネジメントスキルのFDを提供している。本年度も、高等教育研修センター（CTL）との共催により開催した。プレプログラム科目「グローバル実践科目Ⅱ（チーム学習の実践）」で扱っているプロジェクトマネジメント（PM）は、チームでプロジェクトを計画し、実施するために必須であり、「グローバル発展科目Ⅰ（課題解決の実践）」の授業でも活用され、大学院カリキュラムの授業に関わる全ての教員が知っておくべき内容となっている。また、大学院カリキュラムは英語で授業等を行っているので、FDも英語で実施している。このFDは、新渡戸カレッジのみならず、他の教員や大学院生にも公開することで、新渡戸カレッジの認知度向上にも役立っている。また今回は、繁富先生のご協力を得て、EXEX博士人材フェローシップの学生（「Ph.Discover」）も多数参加した。

2. 実施日時・場所

日時：2025年5月24日（土）13:00～18:00 場所：北海道大学 情報教育館3階スタジオ型研修室

3. 参加者

参加人数：34名（事前登録者：48名） 内訳：授業担当教員：3名（サウナワーラ ユハ（北極域研究センター）、三浦篤志（大学院理学研究院）、岩崎晋弥（大学院地球環境科学研究院））、新渡戸カレッジTA：3名、大学院生：22名、学内教員：2名（遺伝子病制御研究所、理学院）、専門職員：2名、大学院カリキュラム特任教員：1名、その他：1名

4. 実施内容

講師：King To Chu（プロジェクトマネジメント協会（PMI）認定講師、PMI Japan 所属）

ワークショップ：今年度のワークショップは、より幅広い層の参加者を対象とするため、特定のアプローチに特化するのではなく、プロジェクトマネジメントの基礎的な理解に立ち返った内容とした。

参加者は、以下の項目について講師による指導を受けながらグループワークを行い、講師からフィードバックを受けた。内容は下記のとおりである。

1. Project Theme: 'Planning and Proposing a Small-scale Student Event for the North Campus Outdoor Space'
2. Project Management Methodology: Waterfall
3. Project Initiation and Vision Statement
4. Stakeholder Management (Identification and Mapping)
5. Project Scope Planning
6. Work Breakdown Structure (WBS) and Project Scheduling
7. Risk Identification and Analysis
8. Presenting your Projects
9. AI and Project Management

5. 実施状況

- 新渡戸授業担当教員、特任教員、学内外の教員、大学院生およびTAで構成された4～6人のチームを編成し、多くの小プロジェクトに取り組んだ。これにより、実際の授業で問題をどのように説明するか、どの点がつまづきやすいかを理解し、授業の具体的なイメージを得ることができた。
- 北海道地域内のさまざまな機関から集まった大学教員と大学院生で構成された多様なチームは、真に学際的な学習環境の中で、与えられたプロジェクトの解決に貴重な洞察を提供した。
- 今年度は参加者が多数であったため、当日に物理的に配布する資料は講義スライドに限定し、追加資料であるPM冊子（ウォーターフォールおよびアジャイル・アプローチ）や関連動画については、参加者がワークショップ後に各自で内容を確認できるよう、QRコードを介して共有する形とした。

6. 課題・改善点

CTLから提供された評価結果やアンケートからのフィードバックによると、今年度のワークショップは参加者から非常に高い評価を得た。満足度に関する設問では、回答者31名中30名が「全体的に満足した」という項目に肯定的（「とてもそう思う」「そう思う」）な回答をしている。自由記述欄においても、講師の専門性の高さや、複雑な内容を分かりやすく説明するスキルを称賛する声が多く見られた。また、グループワークや実践的なツールの応用など、インタラクティブな構成も高く評価された。参加者からは、内容がより一般的で理解しやすかったという意見や、学んだ知識を自身のプロジェクトに活かせるといった前向きな感想が寄せられた。

本ワークショップの申込者数は3年連続で増加しており、その主な要因は大学院生からの関心の高まりである。今回は特に、博士後期課程の学生が参加できる英語でのイベント機会を求めている「Ph.Discover」との連携が成功したことによる。同様に、CTLも今年度、英語で実施するワークショップの数を大幅に削減している。このことから、今後も両組織とのパートナーシップを継続・拡大し、それぞれの組織ニーズに応える形で新渡戸カレッジ関連のイベントを提供していきたい。

新渡戸カレッジにおける博士学生の参加については、難しい点もあるが、専門職倫理・公開授業・メンターフォーラムなど参加できるイベント等もあり、引き続き「Ph.Discover」とも連携していきたい。6月の専門職倫理の授業についてもFDで宣伝したところ、参加博士学生より、事前登録があり、当日の授業では、修士学生と共にディスカッションにも加わってもらうことも想定している。

7. 参考資料

全ての資料は下記のリンクからダウンロード可能。

https://drive.google.com/drive/folders/1AwL3ZSnCaeXxez56DQclliP9FHMefM7z?usp=share_link

(1) 復習用動画の提供

主なPMのトピックに関連する学習資料を動画（8本、各動画の長さは約10～12分）で提供し、参加者にはワークショップ後に視聴し、内容をよく理解してもらうようにした（動画は上記リンクにて参照可能）。

(2) その他

Chu氏が内容をまとめた冊子はグローバル実践科目IIの教材を作成するときに参照した。また、グローバル発展科目Iに学生の参照資料として使用している。

- Handbook 1: Waterfall
- Handbook 2: Agile & Scrum

8. 写真とポスター



※イベントの動画は、以下のリンクからInstagramで閲覧可能

https://www.instagram.com/reel/DKEovL1Bvm7/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRIODBiNWFIZA==

1.3 Nitobe ポートフォリオの活用

新渡戸ポートフォリオ（NPF）とは、学生が自身の学修状況や研究の履歴を記録するオンラインシステムである。これまで独自のポートフォリオを活用していたが、令和8年度から全学のポートフォリオが稼働するため、新渡戸カレッジでもこれを活用することとしている。令和7年度は全学システム移行の過渡期にあり、暫定的に moodle を用いてポートフォリオの運用を行った。

新渡戸カレッジにおいて学生が身につける「自己成長力・コミュニケーション力・多文化理解力・課題解決力・社会的倫理観」（学部）および「能力更新力・組織形成力・社会還元力・専門職倫理（3+1の力）」（大学院）のうち、大学院カリキュラムの「3+1の力」は27の項目から構成されている。各授業の課題は、学生がこれら27の項目に関する到達度を、課題や活動の中で示すとともに、担当教員がその達成状況を評価できるよう設計されている。また、本評価は形成的評価の考え方を採用しており、学生は特定の時点における評価結果だけでなく、プログラム履修期間を通じた自身の成長を継続的に把握することができる。評価活動は授業内のプロジェクトと連動しているだけでなく、各能力項目の意義や、それらを自身の学修・研究活動および将来の職業生活にどのように活用できるかについて省察する機会も提供している。

オナーズプログラム修了時には、学生に「3+1の力」評価報告書が交付される。報告書では27項目すべての到達状況がレーダーチャートによって可視化されており、学生は自身の能力の伸長や特徴を視覚的に把握することができる。

今後は全学の教育システムの中でNPFを運用しつつ、学部教育コース・学部カリキュラムの全学生を対象とするなど、さらに改良していく予定である。



14 会議の開催状況

(1) 新渡戸カレッジ運営会議議題等一覧

開催年月日	議 題 等
第1回(持ち回り会議) 令和7年5月12-21日	報告事項1 令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース修了者数について 報告事項2 令和7年度新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム入校者数について 報告事項3 令和7年度新渡戸カレッジ部局別在籍状況について 報告事項4 令和7年度新渡戸カレッジフェロー・メンターについて 報告事項5 令和7年度新渡戸カレッジ行事予定について
第2回(ZOOM会議) 令和7年9月26日(金)	報告事項1 新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース修了生の決定について 報告事項2 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム修了生の決定について 報告事項3 新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラム入校生の決定について 報告事項4 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム入校生の決定について 報告事項5 新渡戸カレッジ入校式について
第3回(ZOOM会議) 令和8年3月3日(火)	議題1 令和7年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース修了予定者及び総代候補者について 議題2 令和7年度新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム修了生の決定について 議題3 新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラムの授業科目の廃止及び新設について 議題4 北海道大学新渡戸カレッジ規程及び北海道大学新渡戸カレッジ運営会議規程の一部改正について 報告事項1 新渡戸カレッジ副校長等の指名について 報告事項2 新渡戸カレッジ奨学金制度の見直しについて 報告事項3 令和7年度新渡戸カレッジ修了式について 報告事項4 令和7年度北海道大学フロンティア基金各種奨学金の給付状況について 報告事項5 令和8年度新渡戸カレッジが開講する大学院授業科目について 報告事項6 令和8年度新渡戸カレッジ行事予定について
意見交換会(ZOOM会議) 令和8年3月3日(火)	新渡戸カレッジの今後のあり方(運営)について 内容 (1) 新渡戸カレッジを“北大を選ぶ理由”の一つにする仕組み (2) 持続可能な運営モデルと財源の確立

(2) 学部カリキュラム教務専門委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等
第1回(持ち回り会議) 令和7年4月23-30日	報告事項1 令和6年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース修了者数について 報告事項2 令和7年度新渡戸カレッジフェローについて 報告事項3 令和7年度新渡戸カレッジフェロー交流・研究会について 報告事項4 令和7年度新渡戸カレッジ行事予定について
第2回(ZOOM会議) 令和7年9月8日(月)	議題1 令和7年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース修了生の決定について 議題2 令和7年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部カリキュラム入校生の決定について 報告事項1 令和7年度新渡戸カレッジ入校式について 報告事項2 令和7年度新渡戸カレッジオナーズプログラム学部教育コース・学部カリキュラム在籍学生数について

開催年月日	議 題 等
第3回(ZOOM会議) 令和8年3月2日(月)	議題1 令和7年度新渡戸カレッジオナーズプログラム(学部教育コース)修了判定について 議題2 学部カリキュラムの授業科目の廃止及び新設等について 議題3 新渡戸カレッジ規程の一部改正について 議題4 学部カリキュラム教務専門委員会内規の一部改正について 報告事項1 令和7年度新渡戸カレッジ(学部教育コース)修了式について 報告事項2 令和8年度新渡戸カレッジ行事予定について

(3) 大学院カリキュラム教務専門委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等
第1回(持ち回り会議) 令和8年4月23-30日	報告事項1 令和7年度新渡戸カレッジ(大学院カリキュラム)運営体制について 報告事項2 令和7年度春入校 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム入校者について 報告事項3 令和7年度新渡戸カレッジメンターの就任について 報告事項4 令和6年度新渡戸カレッジ(大学院カリキュラム)の実施状況について 報告事項5 令和7年度新渡戸カレッジ行事予定について
第2回(ZOOM会議) 令和7年9月8日(月)	議題1 令和7年度オナーズプログラムの修了判定(9月修了)について 議題2 令和8年度新渡戸カレッジ授業科目の担当教員について 報告事項1 令和7年度大学院カリキュラム(前期)及びFDの実施状況について 報告事項2 令和7年度秋入校学生募集及び入校者選抜の実施方法について 報告事項3 令和7年度新渡戸カレッジ修了式(9月修了)及び入校式(秋入校)について
第3回(ZOOM会議) 令和7年2月20日(金)	議題1 令和7年度オナーズプログラム大学院カリキュラムの修了判定(3月修了)について 議題2 令和8年度春入校学生募集及び入校者選考の実施方法について 議題3 令和8年度新渡戸カレッジ大学院カリキュラム等の授業科目について 議題4 北海道大学新渡戸カレッジ運営会議大学院カリキュラム教務専門委員会内規の一部改正について 報告事項1 新渡戸カレッジで開講する大学院共通授業科目における博士(後期)課程学生の履修について 報告事項2 令和7年度大学院カリキュラム(後期)の実施状況について 報告事項3 令和7年度新渡戸カレッジ修了式(3月修了)及び令和8年度新渡戸カレッジ入校式(春入校)について 報告事項4 令和8年度 新渡戸カレッジ行事予定について

(4) 広報・システム専門委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等
第1回(ZOOM会議) 令和7年7月1日(火) (拡大委員会)	議題1 新渡戸カレッジ運営会議広報・システム専門委員会における検討事項について
第2回(ZOOM会議) 令和8年2月2日(月) (拡大委員会)	議題1 北海道大学新渡戸カレッジ運営会議広報・システム専門委員会内規の一部改正について 議題2 新渡戸カレッジにおける授業・行事風景の広報利用に関するガイドラインについて 報告事項1 各部会における検討事項等について

(5) 奨学金支援専門委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回 令和7年11月10日(月)	議題1	新渡戸カレッジ奨学金制度の見直しについて
	議題2	北海道大学フロンティア基金新渡戸カレッジ海外留学奨学金実施要項の制定について
	議題3	北海道大学フロンティア基金新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム奨学金実施要項の改正について
第2回(持ち回り) 令和8年2月26日～ 3月6日	議題1	北海道大学新渡戸カレッジ運営会議奨学金支援専門委員会内規の一部改正について
	報告事項	令和7年度北海道大学フロンティア基金各種奨学金の給付状況について

(6) 評価委員会議題等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回(ZOOM会議) 令和8年3月5日(木)	協議事項1	新渡戸カレッジの中長期的将来構想について
	協議事項2	評価委員会のあり方について
	協議事項3	令和8年度からの評価委員会委員について
	協議事項4	北海道大学新渡戸カレッジ評価委員会内規の一部改正について

(7) 執行部会協議事項等一覧

開催年月日	議 題 等	
第1回 令和7年4月11日(金)	協議事項1	令和7年度第1回 新渡戸カレッジ運営会議、学部カリキュラム教務専門委員会及び大学院カリキュラム教務専門委員会の開催方法等について
	報告事項1	令和7年度新渡戸カレッジ会議・行事等予定について
	報告事項2	令和6年度新渡戸カレッジ各種会議審議事項等について
第2回 令和7年5月16日(金)	協議事項1	令和7年度第1回新渡戸カレッジフェロー交流・研究会について
	協議事項2	令和7年度新渡戸カレッジの課題・検討事項について
第3回 令和7年7月4日(木)	協議事項1	令和7年度新渡戸カレッジの課題・検討事項について
		①「英語による学部専門科目」の定義
		②奨学金や称号の英語スコア換算の統一化
		③修了証書の和文と英文の内容の統一化
第4回 令和7年8月1日(金)	協議事項1	令和7年度新渡戸カレッジの課題・検討事項について
		①奨学金(フロンティア基金)
第5回 令和7年9月5日(金)	協議事項1	令和7年度第2回新渡戸カレッジ運営会議について
	協議事項2	令和7年度新渡戸カレッジの課題・検討事項について
	報告事項1	①奨学金制度の見直しについて 「HU VISION 2030 加速化プラン実行計画」「その他の財源確保策」について
第6回 令和7年10月3日(金)	協議事項1	令和7年度新渡戸カレッジの課題・検討事項について
		①奨学金制度の見直しについて ②奨学金要項の見直しについて
第7回 令和7年11月14日(金)	協議事項1	令和7年度新渡戸カレッジの課題・検討事項について
		①高等教育推進機構、大学院教育推進機構等の統合(改組)に伴う新渡戸カレッジ各種会議への影響について ②会議のあり方の見直しについて
第8回 令和7年12月5日(金)	協議事項1	第4期中期目標・中期計画の業務実績報告書・達成状況報告書(2次案)の作成について
第9回 令和8年1月9日(金)	協議事項1	第4期中期目標・中期計画の業務実績報告書・達成状況報告書(2次案)の作成について
	協議事項2	令和8年度 新渡戸カレッジ諸会議等開催予定(案)について
	その他	令和7年度新渡戸カレッジフェロー交流・研究会(振り返り会)について

開催年月日	議 題 等
第 10 回 令和 8 年 2 月 6 日(金)	協議事項 1 北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部改正（案）について 協議事項 2 教育イノベーション機構設置に伴う規程及び内規の一部改正（案）について 協議事項 3 令和 7 年度第 3 回新渡戸カレッジ運営会議・意見交換会の議題等について その他 令和 7 年度第 3 回新渡戸カレッジ運営会議の議題等について
第 11 回 令和 8 年 3 月 6 日(金)	その他 (1) 教員人事について（報告） (2) 令和 8 年度の検討事項等について (3) 最終学年在籍者アンケート及びカリキュラムポリシー（5 つの力）アンケートの結果について

15 アンケート結果

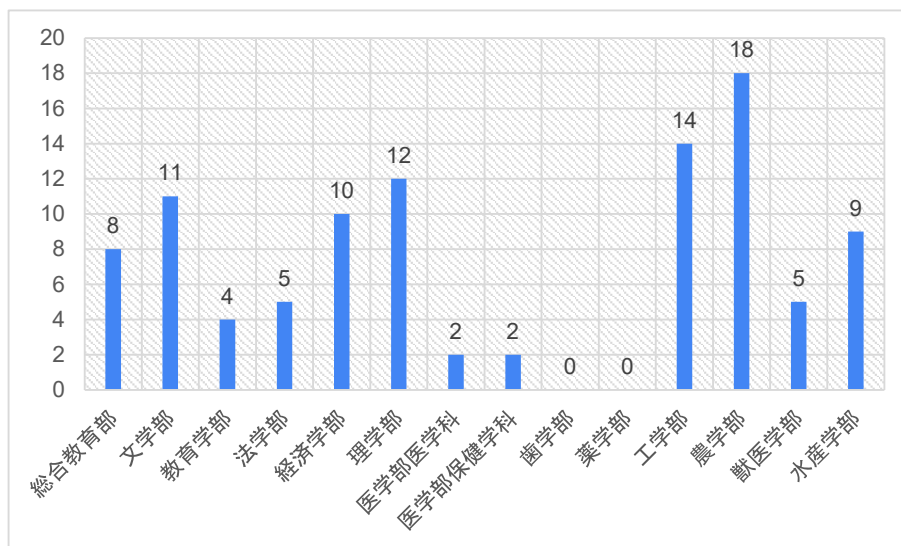
① 2025 新渡戸カレッジ カリキュラムポリシー（5つの力）アンケート結果

実施期間 2025 年 12 月～2 月

回答者 100 名（在籍者 493 名）※回答率：20%

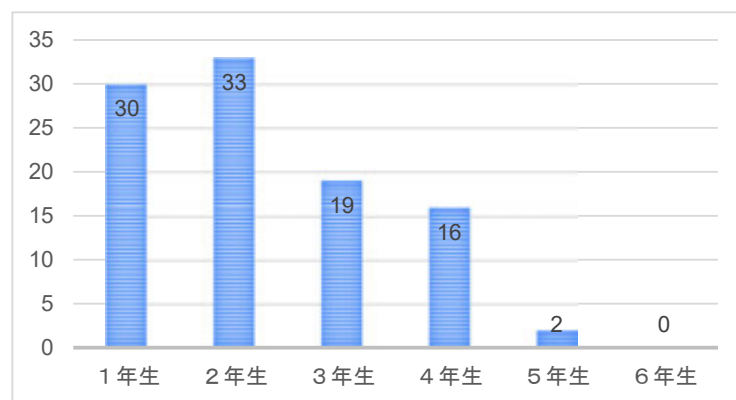
1 所属学部等（回答：100 名）

学部名	在籍者	アンケート 回答者数	回答割合
総合教育部（文系・理系）	50	8	16%
文学部	55	11	20%
教育学部	13	4	31%
法学部	35	5	14%
経済学部	51	10	20%
理学部	50	12	24%
医学部医学科	13	2	15%
医学部保健学科	11	2	18%
歯学部	4	0	0%
薬学部	4	0	0%
工学部	98	14	14%
農学部	65	18	28%
獣医学部	15	5	33%
水産学部	29	9	31%
計	493	100	20%



2 学年（回答：100名）

学年	在籍者	アンケート 回答者数	回答割合
1年生	137	30	22%
2年生	157	33	21%
3年生	104	19	18%
4年生	87	16	18%
5年生	5	2	40%
6年生	3	0	00%
計	493	100	20%



【新渡戸カレッジのカリキュラムポリシー（5つの力）について】

3 下記の授業科目を履修して、どのような力が身に付きましたか

あてはまるものを選んでください（身に付いた力のみ複数回答可）

- (1) グローバル基礎科目（国際理解と海外留学）（回答：100名（5つの力記入91））※必修

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
28 (31%)	15 (16%)	55 (60%)	10 (11%)	37 (41%)	7	2(?)

- (2) グローバル基礎科目（リーダーシップとチームワーク）（回答：100名（5つの力記入98））※必修

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
37 (38%)	73 (74%)	5 (5%)	72 (73%)	15 (15%)	1	1(?)

注）網掛け部分は、
新渡戸カレッジが指
定する力の重視して
いる割合の高い区分

- (3) 留学支援英語（回答：100名（5つの力記入94））※必修

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
41 (44%)	80 (85%)	23 (24%)	17 (18%)	3 (3%)	3	3

- (4) 海外短期語学研修（回答：100名（5つの力記入18））

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
10 (56%)	13 (72%)	13 (72%)	7 (39%)	5 (28%)	0	82

- (5) 国際交流科目（回答：100名（5つの力記入48））

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
21 (44%)	33 (69%)	32 (67%)	18 (38%)	9 (19%)	6	46

- (6) 日本文化・社会に関する理解増進科目 (回答：100 名 (5 つの力記入 8))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
2 (25%)	0 (0%)	4 (50%)	1 (13%)	2 (25%)	3	89

- (7) 専門横断科目 (回答：100 名 (5 つの力記入 27))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
13 (48%)	12 (44%)	16 (59%)	8 (30%)	6 (22%)	4	69

- (8) 英語による学部専門科目 (回答：100 名 (5 つの力記入 22))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
8 (36%)	13 (59%)	4 (18%)	8 (36%)	2 (9%)	1	77

- (9) 新渡戸学 (フェローゼミ) (回答：100 名 (5 つの力記入 90)) ※必修

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
61 (%)	70 (%)	21 (%)	74 (%)	32 (%)	3	7(?)

- (10) 新渡戸学 (セルフキャリア発展ゼミ) (回答：100 名 (5 つの力記入 35))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
25 (71%)	24 (69%)	5 (14%)	17 (49%)	10 (29%)	1	64

- (11) インターンシップ (国内) (回答：100 名 (5 つの力記入 20))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
16 (80%)	15 (75%)	3 (15%)	8 (40%)	8 (40%)	0	80

- (12) フィールド型演習 (回答：100 名 (5 つの力記入 27))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
19 (70%)	17 (63%)	4 (15%)	13 (48%)	9 (33%)	3	70

- (13) 多文化交流科目 (回答：100 名 (5 つの力記入 28))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
10 (36%)	17 (61%)	24 (86%)	9 (32%)	6 (21%)	1	71

- (14) 大学と社会 (回答：100 名 (5 つの力記入 31))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
23 (74%)	3 (10%)	6 (19%)	3 (10%)	13 (42%)	3	66

- (15) グローバル・キャリア・デザイン (回答：100 名 (5 つの力記入 20))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
15 (75%)	9 (45%)	13 (65%)	12 (60%)	9 (45%)	3	77

- (16) 海外留学 (交換留学、学部専門レベル短期留学、国際インターンシップ) (回答：100 名 (5 つの力記入 38))

自己成長力	コミュニケーション力	多文化理解力	課題解決力	社会的倫理観	わからない	履修していない
29 (76%)	31 (82%)	33 (87%)	30 (79%)	23 (61%)	1	61

② 2025年度新渡戸カレッジ最終学年在籍者アンケート結果

実施期間 2025 年 12 月～2 月

回答者 37 名（在籍者 83 名）※回答率：45%（R6 年度回答 14 名（在籍 62 名）※回答率：23%）

1 所属学部（10 学部、回答：37 名）

学部名	最終学年 在 籍 者	2026. 3 修 了 者	アンケート 回 答 者
文学部	12	4	8
教育学部	3	3	0
法学部	7	4	3
経済学部	10	3	4
理学部	10	5	4
医学部医学科	1	0	0
医学部保健学科	2	0	1
歯学部	1	1	1
薬学部	0	0	0
工学部	22	13	9
農学部	8	5	3
獣医学部	1	1	1
水産学部	6	5	3
計	83	44	37

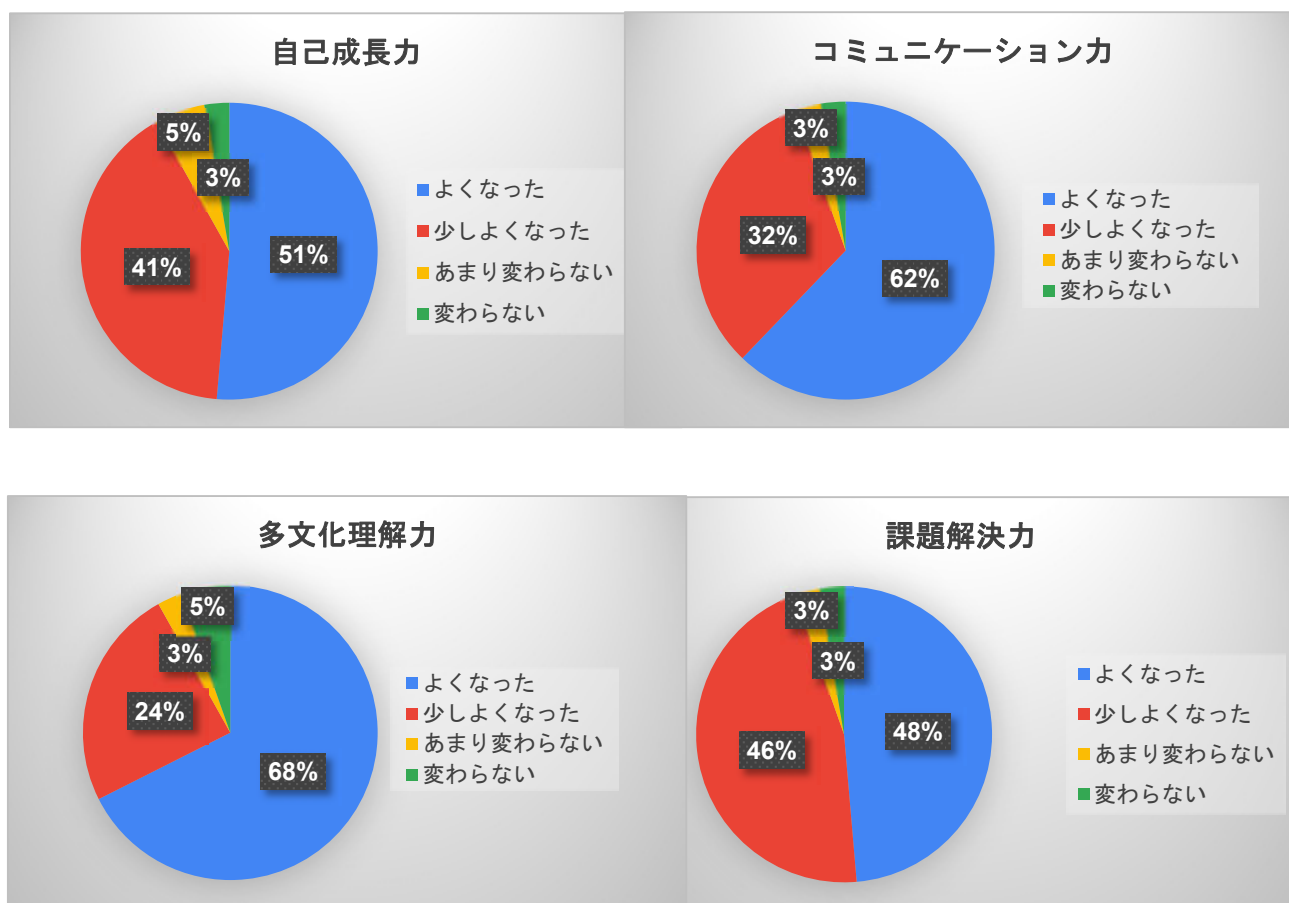
2 入校の理由について、近いものを選んでください（複数回答可）（回答：37 名）

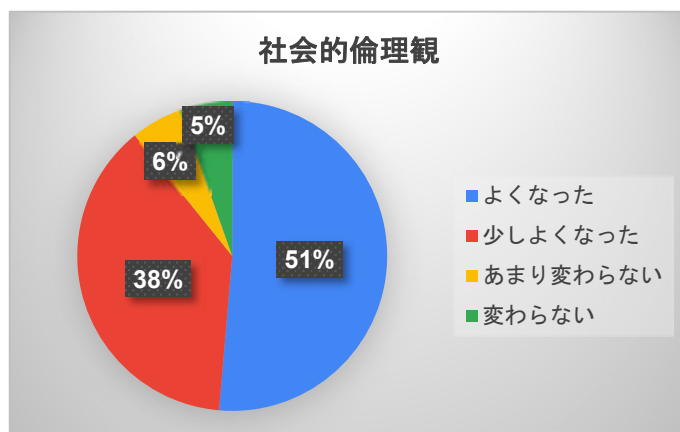
(1) 海外留学	3 2 名（86%）	R6 年度 86%
(2) 奨学金制度	2 6 名（70%）	R6 年度 29%
(3) グローバルリーダーの育成	2 0 名（54%）	R6 年度 50%
(4) 英語力の向上	1 9 名（51%）	R6 年度 50%
(5) 新渡戸カレッジの授業、プログラムの内容	1 2 名（32%）	R6 年度 57%
(6) カレッジ生同士の交流	5 名（14%）	R6 年度 14%
(7) 新渡戸稲造の精神	2 名（05%）	R6 年度 14%
(8) フェローとの交流	1 名（02%）	R6 年度 14%
(9) その他	0 名（00%）	R6 年度 00%

【入校時からの成長】

3 入校時と比べて成長したと思う力について、どの程度あてはまるか教えてください
(回答 : 37 名)

	よくなった	少し よくなった	あまり 変わらない	変わらない
自己成長力 (自律的な個人の確立に向けて、継続的に精励する力)	19名 (51%) (R6 72%)	15名 (41%) (R6 14%)	2名 (5%) (R6 14%)	1名 (3%) (R6 00%)
コミュニケーション力 (外国語運用能力を含む、高いコミュニケーション力)	23名 (62%) (R6 86%)	12名 (32%) (R6 14%)	1名 (3%) (R6 00%)	1名 (3%) (R6 00%)
多文化理解力 (文化的背景の異なる他者の考えを理解し、尊重する力)	25名 (68%) (R6 79%)	9名 (24%) (R6 07%)	1名 (3%) (R6 14%)	2名 (5%) (R6 00%)
課題解決力 (さまざまな課題に対して、周囲との協働により解決を図る力)	18名 (49%) (R6 64%)	17名 (45%) (R6 36%)	1名 (3%) (R6 00%)	1名 (3%) (R6 00%)
社会的倫理観 (社会的役割を認識し、責任感・倫理観を持って行動する力)	19名 (51%) (R6 36%)	14名 (39%) (R6 50%)	2名 (5%) (R6 14%)	2名 (5%) (R6 00%)





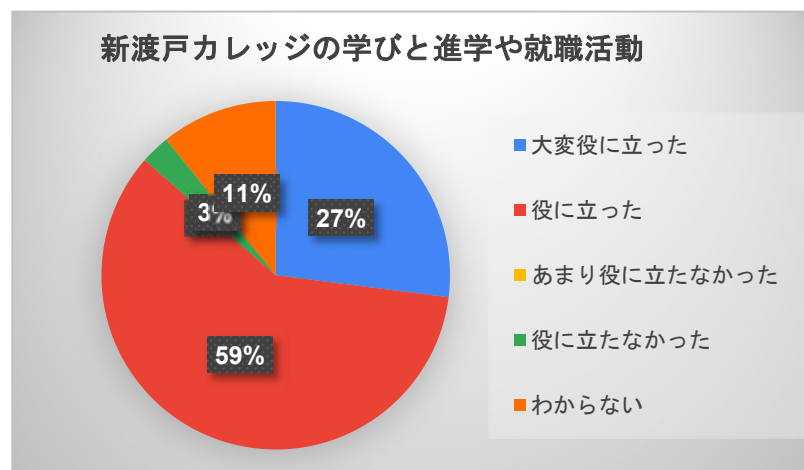
【自主的な活動の取り組み】

- 4 新渡戸カレッジでは、学生企画による行事など自主的な活動を推奨しています
 このような活動に取り組んだ経験がありますか（回答：37 名）
✓ある 11 名（30%）（R6 36%） ✓ない 26 名（70%）（R6 64%）

【新渡戸カレッジでの学びと将来】

- 5 新渡戸カレッジで学んだことが、進学や就職活動の際に役に立ちましたか
 1つだけマークしてください。（回答：37 名）

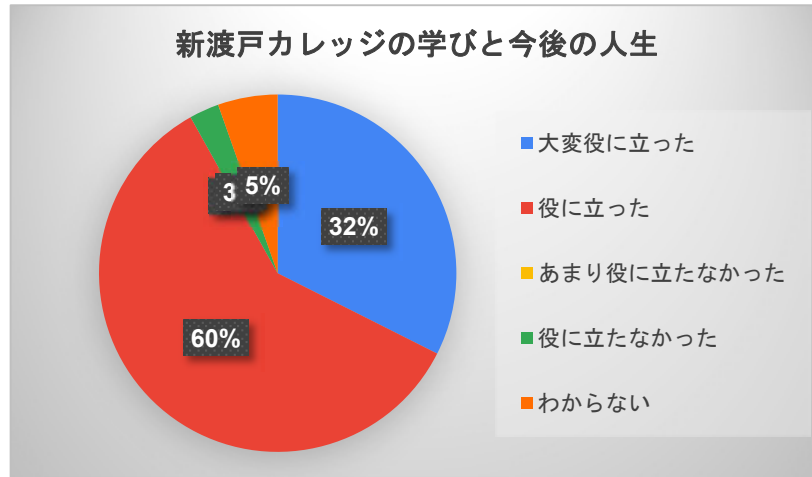
大変役に立った	役に立った	あまり役に 立たなかった	役に立たなかった	わからない
10 (27%) (R6 64%)	22 (59%) (R6 29%)	0 (00%) (R6 00%)	1 (3%) (R6 00%)	4 (11%) (R6 7%)



6 新渡戸カレッジで学んだことが、今後の人生において役に立つと思いますか

1つだけマークしてください。(回答：37名)

大変役に立つ と思う	役に立つと思う	あまり役に 立たないと思う	役に立たない と思う	わからない
12 (33%) (R6 86%)	22 (59%) (R6 14%)	0 (00%) (R6 00%)	1 (3%) (R6 00%)	2 (5%) (R6 00%)



③ 新渡戸カレッジ（オナーズプログラム大学院カリキュラム）修了時アンケート
Questionnaire on Completion of Nitobe College Honors Program: Graduate Curriculum

2025年9月		2026年3月	
修了者	15名	修了者	26名
回答者	11名	回答者	10名
回答率	73%	回答率	38%

1 所属大学院（学院・専攻） / Affiliation (Name of the Graduate School・Division)

大学院	2025年9月		2026年3月	
	修了者	回答	修了者	回答
文学院	0	0	0	0
法学研究科	0	0	1	0
経済学院	1	1	2	2
教育学院	0	0	0	0
国際広報メディア・観光学院	1	1	3	1
公共政策学教育部	0	0	0	0
医学院	0	0	0	0
保健科学院	3	2	1	0
情報科学院	0	0	0	0
工学院	4	2	4	0
総合化学院	0	0	4	2
医理工学院	0	0	0	0
農学院	2	1	2	1
水産科学院	0	0	0	0
環境科学院	1	1	4	2
国際食資源学院	0	0	0	0
理学院	2	2	2	1
生命科学院	1	1	3	1
計	15	11	26	10

5 新渡戸カレッジで学んだことが、就職活動や進学の際に役に立ったと思いますか。（A～Eから一つ選択してください。） Do you think what you have learned at Nitobe College helped you in your job hunting or going to higher education? (Please check one)

選択肢	2025年9月修了者		2026年3月修了者	
	回答		回答	
A 大いに役立った Very helpful	6	55%	6	60%
B 役立った helpful	5	45%	2	20%
C どちらともいえない Not sure	0	0%	2	20%
D 役に立たなかった Not so helpful	0	0%	0	0%
E 全く役に立たなかった Not helpful at all	0	0%	0	0%
計	11	100%	10	100%

6 新渡戸カレッジで学んだことは、今後の人生において役に立つと思いますか。（A～Eから一つ選択してください。） Do you think what you have learned at Nitobe College will be helpful in your future life? (Please check one)

選択肢	2025年9月修了者		2026年3月修了者	
	回答		回答	
A 大いに役立つと思う It will be very helpful	9	82%	7	70%
B 役立つと思う It will be helpful	2	18%	3	30%
C どちらともいえない Not sure	0	0%	0	0%
D 役に立たないと思う It will not be so helpful	0	0%	0	0%
E 全く役に立たないと思う It will not be helpful at all	0	0%	0	0%
計	11	100%	10	100%

7 後輩に、新渡戸カレッジへの入校を勧めますか。（A～Eから一つ選択してください。） Do you recommend students from junior years to study at Nitobe College? (Please check one)

選択肢	2025年9月修了者		2026年3月修了者	
	回答		回答	
A 大いに勧めたい Strongly recommend	8	73%	4	40%
B 勧めたい Recommend	3	27%	6	60%
C どちらともいえない Not sure	0	0%	0	0%
D 勧めたくない Maybe not recommend	0	0%	0	0%
E 全く勧めたくない Never recommend	0	0%	0	0%
計	11	100%	10	100%

※このアンケート結果については、意図としない誘導にならないよう、また個人の特定も考慮し、客観的なデータのみの記載とさせていただきます、記述式の設問については省略させていただきます。

16 広報資料一覧

1 共通

- (1) 新渡戸カレッジ同窓ネットワーク誌「ACROSS」(No.1～No.6)
- (2) 新渡戸カレッジ活動報告書(2022年度～2024年度)

2 学部カリキュラム

- (1) 新渡戸カレッジパンフレット
- (2) 新渡戸カレッジ生募集用チラシ

3 大学院カリキュラム

- (1) 新渡戸カレッジパンフレット
- (2) 新渡戸カレッジ生募集用チラシ

4 報告書

- (1) リサーチインターン報告書 2018年2-3月 沖縄科学技術大学院大学(OIST)
- (2) リサーチインターン報告書 2017年2-3月 沖縄科学技術大学院大学(OIST)
- (3) Reports of Reserch Intern, Feb.-Mar.2017 OIST
- (4) リサーチインターン報告書 2016年2-3月 沖縄科学技術大学院大学(OIST)
- (5) Reports of Reserch Intern, Feb.-Mar.2016 OIST
- (6) 2016年度国際FDワークショップ
- (7) 2015年度国際FDワークショップ
- (8) 2014年度国際FDワークショップ
- (9) 国際FDワークショップの資料はこちら(北海道学術成果コレクション)
- (10) 2016年度ボランティア一日体験実習報告書
- (11) 2016年度ボランティア報告書
- (12) 2015年度ボランティア報告書
- (13) 2014年度ボランティア報告書

5 その他

- (1) 「新渡戸カレッジ」の設立について
※ 出典:『北海道大学 高等教育推進機構ニュースレター No.93』
- (2) 多田フェローゼミの記録(2019年度)

6 参考図書

- (1) グローバルリーダーを育てる北海道大学の挑戦Ⅱ(玉城 英彦/帰山 雅秀/舩 和順(編著))
- (2) 新渡戸稲造 日本初の国際連盟職員(玉城 英彦著)
- (3) グローバルリーダーを育てる北海道大学の挑戦(玉城 英彦/帰山 雅秀/舩 和順(編著))
- (4) 新渡戸稲造に学ぶ 武士道・国際人・グローバル化(舩 和順・佐々木 啓(編著)、ミシェル・ラフェイ、権 錫永、山本 博文、トレント・マクシ、白木沢 旭児、日野 峰子)

○新渡戸カレッジHP

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>



○新渡戸カレッジ支援事業

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/projects/nitobe/>



○北海道大学HP

<https://www.hokudai.ac.jp/>





Hokkaido University
Nitobe College

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目

北海道大学学務部教育推進課

新渡戸カレッジ推進事務室 新渡戸カレッジ担当

URL:<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp>

Email:nitobe-college@academic.hokudai.ac.jp

2026 年7月発行